

基準 2 学修と教授

基準 2. 学修と教授

2-1 学生の受入れ

《2-1 の視点》

2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知

2-1-② 入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

(1) 2-1 の自己判定

基準項目 2-1 を満たしている。

(2) 2-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知

八戸学院大学（以下、本学）のアドミッション・ポリシーは、平成 28(2016)年 3 月 31 日に公表された中央教育審議会大学分科会大学教育部会策定の「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受け入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定および運用ガイドラインと平成 29(2017)年 4 月 1 日施行となる、学校教育法施行規則の一部を改正する省令の公布に基づき、全学的な見直しを行い、平成 29(2017)年 4 月に改訂している。

改訂したアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）と判定方法は、本学の建学の精神に基づき、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を踏まえ、多様な学生を受け入れることができるよう、入学者に求める能力や高校時代に学ぶべき科目、また、それを評価する基準・方法など、入学者選抜の判定方法についても学部学科別に定め明確に示している。

新たなアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）と判定方法は、全学的な見直しにおいて、学科会議および教授会で全教職員に周知が図られた。

また、「大学公式ホームページ」、「学生生活ハンドブック（学生便覧）」、「大学案内」、「入学者選抜試験要項」に記載するとともに、高校教員を対象とした入試説明会、進学説明会・相談会、教職員による高校訪問、オープンキャンパスなどさまざまな機会を活用し、学内外への周知を図っている。【資料 F-2】大学案内、【資料 F-4】学生募集要項、入学者選抜要項、【資料 F-5】学生便覧、【資料 2-1-1】八戸学院大学公式ホームページ（教育情報の公表）

改訂した本学のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）と判定方法は、表 2-1-1 のとおりである。

表 2-1-1 アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）と判定方法

大 学	アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針） 1. 「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神を理解する人。 2. 積極的な勉学意欲を持ち、学問や学生生活などで自分なりに「テーマ」や「将来の夢」に向かって取り組む意欲のある人。 3. 地域社会が抱える諸問題を、意欲的に研究し、他者と協力しながら、粘り強くその解決策を導くことに関心・意欲のある人。 4. 高等学校における「国語総合」または「現代文」、「数学Ⅰ」および「数学Ⅱ」、「オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ」または「英語Ⅰ・Ⅱ」の学習を通じて、大学での学修に必要な読解力、表現力、思考力、コミュニケーション力を身につけている人。
ビジネス学部 ビジネス学科	アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）と判定方法 ビジネス学の基礎となる「経営・会計・情報・商業」のいずれかの分野に関して、強い興味と関心を持って主体的に学ぶ意欲を有し、将来、ビジネス学の学びを通じて地域社会における様々な課題を自ら判断し、検討し、解決策を見つけ、それを学生や地域の人々と協働しながら実践しようとする意思を有する人。さらにビジネス学を理解するために必要な「基礎学力」、「コミュニケーション能力」を有し、これらの主体性、思考力・判断力・実践力、知識・技能をもつ人を受け入れる。 【具体的な受け入れ方針】 1. 「経営・会計・情報・商業」のいずれかの分野に関して、強い興味と関心を持って主体的に学ぶ意欲を有する。 2. ビジネス学の学びを通じて地域社会における様々な課題を自ら判断し、検討し、解決策を見つけ、それを学生や地域の人々と協働しながら実践しようとする意思を有する。 3. 高等学校における「国語」、「数学」、「外国語（英語）」の基礎科目のほかに、「世界史Ⅰ」または「世界史Ⅱ」、「現代社会」または「倫理」、「政治経済」、「社会と情報、情報の科学からの1科目」を学習し、十分な基礎学力を身につけている。 4. 資料や文章を読む「読解力」を有し、自分の理解や考えを口頭や文章、プレゼンテーションにより適切に表現する「表現力」などの基本的な「コミュニケーション能力」を有する。 【入学者選抜における判定方法】 1. 「経営・会計・情報・商業」のいずれかの分野に関して、強い興味と関心を持って主体的に学ぶ意欲については、書類審査と面接により判定する。 2. ビジネス学の学びを通じて地域社会における様々な課題を自ら判断し、検討し、解決策を見つけ、それを学生や地域の人々と協働しながら実践しようとする意思については、書類審査と面接により判定する。 3. 高等学校で学習した主要科目について、十分な基礎学力を身につけていることについては、書類審査と学力検査により判定する。 4. 読解力・表現力などの基本的なコミュニケーション能力については、書類審査と面接又は小論文により判定する。
健康医療学部 人間健康学科	アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）と判定方法 深い教養とリテラシーを身につける意欲と、こころとからだに関する学問領域に強い興味と関心を持って主体的に学ぶ意欲を有し、医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野の学びを通じて、将来において、現代社会が求める健康ニーズに先駆的に取り組んでいこうという強い意志を持っている人を受け入れる。 【具体的な受け入れ方針】 1. 深い教養とリテラシー、こころとからだに関する学問領域に強い興味と関心を持って、主体的に学ぶ意欲を有している。 2. 現代人の健康ニーズに先駆的に取り組んでいこうという強い意志を持っている。 3. 「教育職（保健体育）（養護・保健・看護）」、「トレーニング指導者」、「スポーツリーダー」、「認定心理士」、「社会福祉士」の資格取得を目指している。 4. 高等学校における「国語」、「数学」、「外国語（英語）」の基礎科目のほかに、「科学と人間生活」、「生物基礎」、「生物」のいずれか1科目を学習し、十分な基礎学力を身につけている。

健康医療学部看護学科	【入学者選抜における判定方法】 1. 深い教養とリテラシー、こころとからだに関する学問領域に強い興味と関心を持って主体的に学ぶ意欲を有していることについては、書類審査と面接により判定する。 2. 現代人の健康ニーズに先駆的に取組んでいこうという強い意志を持っていることについては、書類審査と面接により判定する。 3. 「教育職(保健体育)(養護・保健・看護)」、「トレーニング指導者」、「スポーツリーダー」、「認定心理士」、「社会福祉士」の資格取得を目指していることについては、書類審査と面接により判定する。 4. 高等学校における「国語」、「数学」、「外国語(英語)」の基礎科目のほかに、「科学と人間生活」、「生物基礎」、「生物」のいずれか 1 科目を学習し、十分な基礎学力を身につけていることについては、書類審査と学力検査により判定する。
	アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)と判定方法 看護師・保健師になる強い意志を持ち、将来において医療関係職種の一員として主体的に行動し、地域の看護活動に携わる高い意欲のある人を受け入れる。
	【具体的な受け入れ方針】 1. 人間を理解し、共感する知性と感性を磨き、援助的人間関係を築こうとする意欲を有する。 2. 看護師・保健師としてのものの見方や考え方、基本的な看護技術、看護理論、多様な場における看護実践を主体的に学ぶ強い意欲を有する。 3. 多くの医療関係職種と連携・協働して、地域の看護活動に貢献する基礎的研究方法を身につけようとする高い意欲を有する。 4. 高等学校における「国語」、「外国語(英語)」の基礎科目のほかに、「生物基礎」、「数学Ⅰ」、「数学A」のいずれか 1 科目を学習し、十分な基礎学力を身につけている。 【入学者選抜における判定方法】 1. 人間を理解し、共感する知性と感性を磨き、援助的人間関係を築こうとする意欲については、書類審査と小論文および面接により判定する。 2. 看護師・保健師としてのものの見方や考え方、基本的な看護技術、看護理論、多様な場における看護実践を主体的に学ぶ強い意欲については、書類審査と小論文および面接により判定する。 3. 多くの医療関係職種と連携・協働して、地域の看護活動に貢献する基礎的研究方法を身につけようとする高い意欲については、書類審査と面接により判定する。 4. 高等学校における「国語」、「外国語(英語)」の基礎科目のほかに、「生物基礎」、「数学Ⅰ」、「数学A」のいずれか 1 科目を学習し、十分な基礎学力を身につけていることについては、書類審査と学力検査により判定する。

2-1-② 入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫

平成 29(2017)年度の入学者の受け入れは、平成 29(2017)年 4 月改訂以前のアドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)に則り実施した。【資料 2-1-2】2017 入試ガイドおよび平成 29 年度入学者選抜試験要項

入学試験においては、アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)を理解した一定の基礎学力を持つ多様な学生を受け入れるため、種々の選抜方法を設けており、志願者は個々に応じた入学試験を選択できるよう工夫している。

具体的な本学の入学試験種別は、以下のとおりである。

● AO 入学試験 <ビジネス学科、人間健康学科>

AO 入学試験は、学部・学科のアドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)やカリキュラムの特徴を理解しているかを詳細な書類審査と面接をとおして、総合的に判定する試験である。

選抜方法は、自己アピール、入学後の抱負、将来の進路などの内容や論述の力を評価するとともに、面接では志望学科での学修に対する興味・関心、主体的に学ぶ意欲・能力、

諸活動など志望動機がアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）に適合しているかを総合的に評価して判定している。

また、この AO 入学試験は、上級資格取得者が出願できる「S 特待生選抜試験」も兼ねており、選抜には、一次面接に加えて、学長・学部長による二次面接を行っている。【資料 F-5】学生便覧、【資料 2-1-3】八戸学院大学創造育成特待生規程

S 特待生は、出願時の資格取得状況によって学費免除の特典が「S-I」、「S-II」、「S-III」の 3 つに区分されている。

その基準は表 2-1-2 のとおりである。

表 2-1-2 S 特待生の選抜基準

区分	S-I 特待生 《授業料免除》	S-II 特待生 《授業料半額＋教育費半額免除》	S-III 特待生 《教育費免除》
対象の資格	実用英語技能検定	実用英語技能検定	実用英語技能検定
	日本漢字能力検定	日本漢字能力検定	日本漢字能力検定
	数学技能検定	数学技能検定	数学技能検定
	日商簿記検定	日商簿記検定	日商簿記検定
	簿記実務検定 (全国商業高等学校協会)※1級のみ	簿記実務検定 (全国商業高等学校協会)※1級のみ	簿記実務検定 (全国商業高等学校協会)※1級のみ
	基本情報技術者	基本情報技術者	ITパスポート
	ITパスポート	ITパスポート	
特待生条件	・いずれかの準1級以上を一つ (簿記実務検定は除く) ・いずれかの2級を二つ ・いずれかの2級を一つ＋いずれかの準2級を二つ ・基本情報技術者＋いずれかの準2級以上を一つ ・簿記実務検定＋いずれかの準2級以上を二つ ・ITパスポート＋いずれかの準2級以上を二つ	・いずれかの2級を一つ＋いずれかの準2級を一つ ・いずれかの準2級を三つ ・基本情報技術者については一つ ・簿記実務検定＋いずれかの準2級以上を一つ ・ITパスポート＋いずれかの準2級以上を一つ	・いずれかの2級を一つ ・いずれかの準2級を二つ ・簿記実務検定については一つ ・ITパスポートについては一つ
	注意：S特待生は4年間継続を原則とするが、特待生として相応しくないと認められる場合は停止することがある。 継続の条件：各学年毎に年間34単位以上取得し、かつ、取得した単位数の6割以上が「秀」または「優」であること。		

● 推薦入学試験（第Ⅰ期・第Ⅱ期）＜ビジネス学科、人間健康学科＞

高等学校長の推薦を受けた志願者を対象に、第Ⅰ期と第Ⅱ期の 2 回実施している。

第Ⅰ期と第Ⅱ期の違いは、以下のとおりである。

- ①第Ⅰ期は卒業見込みの者に限り、第Ⅱ期は高等学校を卒業した者も対象としている。
- ②第Ⅰ期は本学を第一希望とする専願とし、第Ⅱ期は併願も可としている。
- ③学業成績の条件を評定平均値 3.0 以上としているが、第Ⅰ期では 3.0 未満でも資格・検定、スポーツ等において優れた実績がある場合は出願を認めている。
- ④第Ⅰ期では、合格者のうち成績優秀でかつ評定平均値 4.0 以上の者（若干名）を特待生候補者に選抜している。この特待生は、入学年度の 1 年間は授業料の半額と教育費の半額を免除される。

選抜方法は、推薦理由や志望動機がアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）に適合しているかを面接において確認し、調査書と併せて総合的に評価して判定している。

【資料 F-5】学生便覧、【資料 2-1-4】八戸学院大学学業特待生規程

● 推薦入学試験（指定校推薦・公募推薦）＜看護学科＞

高等学校長の推薦を受けた志願者を対象に、指定校推薦と公募推薦の2回実施している。どちらの推薦入学試験も本学を第1希望とする専願に限り、評定平均値3.8以上を出願条件としている。

指定校推薦と公募推薦の違いは、以下のとおりである。

- ①指定校推薦は卒業見込みの者に限り、公募推薦は前年度に高等学校を卒業した者も対象としている。

選抜方法は、推薦理由や志望動機、看護師・保健師としての考え方がアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）に適合しているかを面接と小論文において確認し、調査書と併せて総合的に評価して判定している。

指定校推薦・公募推薦の合格者のうち、成績優秀でかつ評定平均値4.0以上の者を特待生候補者（若干名）としている。特待生は、入学年度の授業料および教育費全額または一部が免除される。【資料 F-5】学生便覧、【資料 2-1-4】八戸学院大学学業特待生規程

● 専門課程入学試験＜ビジネス学科、人間健康学科＞

専門課程入学試験は、専門課程・総合学科実業系列で職業教育を主とする学科（普通課程以外）の生徒を対象とし、出願条件は以下のとおりである。

- ①高等学校（専門課程・総合学科実業系列）を卒業見込みの者
②本学を第1希望（専願希望者のみ）とする者
③学業成績が評定平均値3.0以上の者

ただし、資格や検定、スポーツ等において優れた実績を有する者は、この限りではない。

選抜方法では、高校在学中の取得資格や検定、スポーツ等における優れた実績（ボランティア活動、地域活動等も含む）を重視している。また、面接時に、志望動機がアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）に適合しているかを確認し、調査書と併せて総合的に評価して判定している。

● 一般入学試験（前期・後期）＜ビジネス学科、人間健康学科、看護学科＞

一般入学試験は、十分な基礎学力を身につけていることを判定の基準にしている。

ビジネス学科、人間健康学科での選抜方法は、①国語【国語】（近代以降の文章）、②外国語【英語】、③数学【数学Ⅰ・数学A】、④小論文の4科目（小論文は学部学科別問題）の中から任意選択の2科目の筆記試験を行う前期日程と小論文および面接を行う後期日程があり、成績と書類審査により総合的に評価して判定している。

看護学科の選抜方法は、前期日程、後期日程とも①国語【国語】（近代以降の文章）、②外国語【英語】、③選択科目として理科【生物基礎】または数学【数学Ⅰ・数学A】の3科目の成績と書類審査により総合的に評価して判定している。

一般入学試験の前期日程の合格者のうち、成績優秀者（看護学科は評定平均値4.0以上の条件）を特待生候補者（若干名）としている。特待生は、入学年度の授業料および教育費の全額または一部が免除される。

入学試験問題については、入学試験運営委員会が各学部・学科から作題者を選出し、問題作成に当たっている。校正を行う際や正答の作成、試験日当日の最終チェック作業については、情報漏洩に十分注意するとともに、出題ミスが無いように出題者および入学試験運営委員相互のチェックを行っている。【資料 F-5】学生便覧、【資料 2-1-4】八戸学院大学学

業特待生規程、【資料 2-1-5】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部入学試験運営委員会規程

● **大学入試センター試験成績利用入学試験 <ビジネス学科、人間健康学科、看護学科>**

ビジネス学科、人間健康学科の選抜方法は、当該年度の大学入試センター試験における任意の 2 教科 2 科目の成績により判定している。

看護学科の選抜方法は、当該年度の大学入試センター試験で以下の本学指定科目の成績により判定している。

① 国語【国語】（近代以降の文章）

② 外国語【英語】（筆記のみ）

③ 理科【生物】、【化学】または数学【数学Ⅰ】、【数学Ⅰ・数学A】から 1 科目選択
ビジネス学科と人間健康学科では、合格者の中から成績優秀者を特待生候補者（若干名）としている。特待生には、入学年度の授業料および教育費の全額または一部が免除される。

また、ビジネス学科、人間健康学科を第 1 希望とする現役生の合格者の中から、学費負担者の経済的事情により学業継続困難と認められる対象者を修学奨励生候補者（若干名）としている。【資料 F-5】学生便覧、【資料 2-1-4】八戸学院大学学業特待生規程、【資料 2-1-6】八戸学院大学修学奨励生規程

● **編入学試験（前期・後期）<ビジネス学科、人間健康学科>**

編入学に関しては、3 年次または 2 年次編入となっている。平成 28(2016)年度には、学校教育法および学校教育法施行規則の一部改正に伴い、高等学校専攻科の課程を修了した者の大学編入の対応を検討した。また、各年次編入の出願条件の明確化を検討し、平成 29(2017)年 4 月に「八戸学院大学編入学規程」を改訂した。

3 年次編入に当たっては、学校教育法による大学に 2 年以上（休学を除く）在学し（もしくは在学が見込まれ）、62 単位以上修得した（もしくは修得が見込まれる）者、または短期大学の卒業（見込み）者、その他同等以上の資格を有する者となっている。2 年次編入にあっては、学校教育法による大学に 1 年以上（休学を除く）在学し（もしくは在学が見込まれ）、30 単位以上修得した（もしくは修得が見込まれる）者、または短期大学の卒業（見込み）者、その他同等以上の資格を有する者となっている。

志望者には、事前に履修科目や取得単位の確認を受けるように指導している。選抜方法は、書類審査と面接により総合的に評価して判定している。試験は、12 月と 3 月に実施している。【資料 2-1-7】八戸学院大学編入学規程

● **学士入学試験（前期・後期）<ビジネス学科、人間健康学科>**

学士を有する者および学士修得見込の者を対象としている。選抜方法は、書類審査と面接により総合的に判定している。試験は、編入学試験と同時期の 12 月と 3 月に実施している。【資料 2-1-8】八戸学院大学学士入学規程

● **社会人入学試験（前期・後期）<ビジネス学科、人間健康学科>**

満 23 歳以上の有職者、主婦、定年退職者等（浪人生は含まず）を対象に、書類審査と面接により総合的に判定している。試験は、編入学試験、学士入学試験と同じく 12 月と 3 月に実施している。

なお、合否発表の日程が早い AO 入学試験、推薦入学試験の合格者に対しては、入学時までの学習意欲の維持、大学での学修にスムーズに移行させるための基礎学力の向上を目

的に「教務委員会リメディアル教育推進担当」が入学前課題を課し提出を義務づけている。

【資料 2-1-9】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部教育センター規程、【資料 2-1-10】八戸学院大学教務委員会規程

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

ビジネス学部ビジネス学科の入学者数は、平成 25(2013)年度から平成 28(2016)年度までの 4 年間、入学定員を満たすには至らず、入学定員充足率は 65%から 88%であった。しかし、平成 29(2017)年度は入学者数が入学定員を上回り、入学定員充足率 106%を達成した。また、平成 25(2013)年度から平成 29(2017)年度までの 5 年間の学部・学科の収容定員充足率は 70%以上を維持している。

健康医療学部人間健康学科の入学者数は、平成 25(2013)年度と平成 28(2016)年度に入学定員を上回るなど、平成 29(2017)年度までの過去 5 年間の入学定員充足率は 86%から 115%を維持しており、学科の収容定員充足率は安定的に 80%以上を維持している。

また、平成 28(2016)年度、健康医療学部に増設した看護学科の入学者数は、平成 29(2017)年度までの過去 2 年間、入学定員を満たしていないが、入学定員充足率と学科の収容定員充足率は、ともに 80%以上であった。

少子化による 18 歳人口減少の進行により、平成 29(2017)年度までの過去 5 年間、両学部・学科ともに入学定員数を確保することは厳しい状況であったが、大学全体としての入学定員充足率は 87%から 90%、収容定員充足率は 75%から 87%を維持している。

過去 5 年間の入学定員・入学者数・収容定員・在籍者数の推移は表 2-1-3 のとおりである。

表 2-1-3 入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数の推移 (各年度 5 月 1 日現在)

学部学科	ビジネス学部 ビジネス学科				
年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
定員	80	80	80	80	80
入学	52	71	70	58	85
比率	65.0%	88.8%	87.5%	72.5%	106.3%
収容	320	320	320	320	320
在籍	224	241	257	246	276
比率	70.0%	75.3%	80.3%	76.9%	86.3%
学部学科	健康医療学部 人間健康学科				
年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
定員	80	80	80	80	80
入学	92	69	75	88	78
比率	115.0%	86.3%	93.8%	110.0%	97.5%
収容	320	320	320	320	320
在籍	260	274	291	310	288
比率	81.3%	85.6%	90.9%	96.9%	90.0%
学部学科	健康医療学部 看護学科				
年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
定員				80	80
入学				69	67
比率				86.3%	83.8%
収容				80	160
在籍				69	135
比率				86.3%	84.4%
大 学 計					
年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
定員	160	160	160	240	240
入学	144	140	145	215	230
比率	90.0%	87.5%	90.6%	89.6%	95.8%
収容	640	640	640	720	800
在籍	484	515	548	625	699
比率	75.6%	80.5%	85.6%	86.8%	87.4%

【表 F-4】学部・学科の学生定員及び在籍学生数、【表 2-1】学部、学科別の志願者数、合格者数、入学者数の推移（過去 5 年間）、【表 2-2】学部、学科別の在籍者数（過去 5 年間）

(3) 2-1 の改善・向上方策（将来計画）

本学の建学の精神に基づく、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）と判定方法を入学希望者や学生・保護者、および高等学校、地域社会や産業界などの関係者に理解されるよう、大学内外に積極的に継続発信し、更なる認知度向上を目指す。

また、改訂した新たなアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）と判定方法に則り、選抜方法の多様化や評価尺度の多元化の観点で踏まえた入学者の受け入れが、入学試験制度や出題内容に適切に反映されるよう検討する。

2-2 教育課程及び教授方法

《2-2 の視点》

2-2-① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化

2-2-② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発

(1) 2-2 の自己判定

基準項目 2-2 を満たしている。

(2) 2-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-2-① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）は、学則第1条の教育目的に基づき策定している。カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）は、「学生生活ハンドブック（学生便覧）」のほか、本学公式ホームページで公開し、明示している。【資料 F-5】学生便覧、【資料 2-2-1】八戸学院大学公式ホームページ（教育情報の公表）

本学のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）は、表 2-2-1 のとおりである。

表 2-2-1 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

大 学	1. 建学の精神にのっとり、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するために、宗教関連科目、リテラシー教育科目、外国語科目等を必修とし、その他、多様なリベラルアーツ科目を選択科目として配置する。 2. 職業イメージや資格・免許の取得を念頭におき、学生の主体的な学修を促すためにコース・プログラム制等を導入し、専門知識と技術が体系的に修得できるようにする。 3. 地域社会の多様なニーズに応え、専門性を身につけ、考える力や表現力を備えた有為な人材を育成するため、学部・学科必修科目、コース・プログラム関連科目、学部・学科選択科目を配置する。
ビジネス学部 ビジネス学科	1. 学問を修得する基本姿勢（読む、書く、聞く、話す、ITを用いる）を養うために、1年次に基礎演習、プレゼンテーション、日本語リテラシー、情報処理基礎を配置し、2年次以降には将来の進路や学びたい領域に応じて、経営・会計・情報・商業等のビジネス学の基礎的能力を養うために、専門的な研究演習を配置する。また、将来の進路について自主的に考えることができるよう、各学年にキャリアデザインを配置する。 2. 地域課題を発見し、分析し、解決するために、公益性・実践力・専門性・採算性の能力を持った人材の育成を目指し、「経営コース」、「公共コース」を配置する。「経営コース」には、企業において経営・会計・商業等の専門的な知識・技能を持って活躍する人材を育成するための「起業家・ビジネスプログラム」、情報に関する専門家を目指す人材を育成するための「IT・Web クリエイティブプログラム」、農業経営に携わる人材を育成するための「農業経営プログラム」を配置する。「公共コース」には、地方自治体や地域のために活動する人材の育成を目指す「公共経営プログラム」と、商業、情報の教職免許の取得を目指す「教育職プログラム（商業・情報）」を配置する。 3. 公益性・実践力・専門性・採算性の能力を養うために、ビジネス学を学ぶ上で必要な入門科目である必修科目、必修科目を基にさらに専門性を高めた選択科目を、科目の順序性を考慮して配置する。また、ビジネスフィールドワークやビジネス特論（地域活性化システム論）を配置し、授業を通じて地域活動やフィールドワークを行い、海外事情の授業や語学を学ぶための短期海外留学の実施により学生の国際交流を促進し、積極性を身につける。

健康医療学部 人間健康学科	1. 豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力、地域文化の理解を養うために、建学の精神に関する科目、基礎演習、日本語リテラシー、情報処理基礎、語学、地域文化論等の必修科目を含む多様なリベラルアーツ科目を配置する。 2. こころとからだに関する健康科学の教養を獲得するための学科必修科目と、医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野の基礎と実践力を身につける学科選択科目、将来の進路について自主的に考えるためのキャリアデザイン科目を配置する。 3. 現代社会の健康ニーズに対応できる能力の育成を目指し、「スポーツ科学コース」と「健康科学コース」の2コースをおき、資格・免許の取得のために「スポーツ科学コース」には「教育職プログラム(保健体育)」、「トレーニング指導者プログラム」、「健康科学コース」には「教育職プログラム(養護・保健・看護)」、「認定心理士プログラム」「社会福祉士プログラム」をおく。
健康医療学部 看護学科	1. 豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を、地域文化の理解を養うために、建学の精神に関わる科目、基礎演習、日本語リテラシー、情報処理基礎、語学、地域文化論等の必修科目を含む多様なリベラルアーツ科目を配置する。 2. 看護専門職になるうえで必要な基礎的知識や実践能力を養うために、専門導入科目と専門基礎科目をおき、「人間と健康」、「環境と健康」の2領域を設ける。 3. 看護師・保健師としてのものの見方や考え方、基本的な看護技術、看護理論、多様な場での看護実践と研究方法を身につけるため、「看護の基本」、「看護の展開」、「看護の統合・看護の発展」、「看護の研究」、「公衆衛生看護」の5領域からなる「専門科目」をおく。 4. 看護師・保健師の国家試験受験資格を取得させるため、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の教育内容を踏まえた教育課程の編成とする。

ビジネス学部ビジネス学科の教育課程については、商業、経営、会計、情報等の内容を含むビジネス関係の学問の体系を基礎におき、「(1) それぞれの従事する職業を通して地域の課題を分析し、解決できる公益性、実践力、専門性、採算性の能力を身につけさせる」、「(2) 市場等調査活動、インターンシップ、地域コミュニティ活動、ベンチャービジネス、NPO、自治体の活動への参加・交流を通して、ビジネスマインド、チャレンジシップを身につけさせる」という2つの視点に沿って教育を展開している。【資料 2-2-2】八戸学院大学履修規程（第2条）

健康医療学部人間健康学科および看護学科の教育課程においては、「人間の理解」と「健康の理解」について学習する専門教育を基礎におき、「(1) 健康と医療の基礎知識から教育面や政策に至るまで、医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野の研究・指導・実践ができる能力を身につけさせる」、「(2) 健康増進と保健医療の分野において、地域社会が要求する健康ニーズに対応できる能力を身につけさせる」という2つの視点に沿って教育を展開している。【資料 2-2-3】八戸学院大学履修規程（第2条2）

原則として両学部共通で展開されるリベラルアーツ科目は、建学の精神に基づき、より「幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ために設置されている。総合的な思考力・判断力・問題解決能力を養うことを目的とし、専門教育科目と併行して主に1年次・2年次で学修する。【資料 2-2-4】八戸学院大学履修規程（第3条）

2-2-② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発

● 教育課程の体系的編成

両学部における教育課程の体系は、表 2-2-2 のとおりである。

表 2-2-2 教育課程の体系

リベラルアーツ	導入教育	
	・建学の精神を体現する観点から宗教関連の 2 科目を配置している。 ・リテラシー教育を重視する観点から演習・実習形式の 3 科目を配置している。 ・日本語の基礎的な語彙力・表現力の向上を目指す観点から 2 科目配置している。 ・健康医療学部には、必修科目として「地域文化論」が設けられた。	
専門教育科目	ビジネス学部ビジネス学科	大学共通選択科目
		・「人としてのあり方を学ぶ領域」、「社会のあり方を学ぶ領域」、「自然と科学を学ぶ領域」、「外国語を学ぶ領域」の 4 分野に属する歴史、芸術、哲学、心理学、自然科学、外国語等 2 科目を選択科目として配置している。 ・健康医療学部人間健康学科のみ、「自然科学概論」が必修科目である。
		学部必修科目
		・専門教育科目を学ぶ上で学問体系上最も基礎的な位置づけにある講義科目 11 科目を配置している。また、2 年次以上対象の研究演習 6 科目を配置している。
		キャリア教育科目
		・キャリア教育として必修科目を 6 科目配置し、うち 2 年次以上配当の 4 科目はビジネス学科、人間健康学科それぞれの開講となっている。 ・大学卒業後のキャリアについて考えるキャリア教育科目を 2 科目配置している。
		学部（コース）選択科目
		・学生が職業イメージと目的意識をもち、かつ体系的に学ぶことができるよう、2 コース・5 プログラムに科目を分類・配置している。
		学部選択科目
		・学内外での実習形式の科目、企業経営の現場に携わる等の実務経験者が担当する講義科目を計 7 科目配置している。
	健康医療学部	人間健康学科
		学科必修科目
		・「こころ」と「からだ」の基礎を学び、また健康科学の教養の獲得を目標として 15 科目を配置している。また、2 年次以上対象の研究演習 6 科目を配置している。
		キャリア教育科目
		・キャリア教育として必修科目を 6 科目配置し、うち 2 年次以上配当の 4 科目はビジネス学科、人間健康学科のそれぞれの開講となっている。 ・大学卒業後のキャリアについて考えるキャリア教育科目を 2 科目配置している。
		学科（コース）選択科目
		・職業イメージと結びつくよう、また、体系的に学ぶことができるよう、2 コース・5 プログラムに科目を分類・配置している。
		学科選択科目
		・学内外での実習形式の科目、卒業論文を含む 4 科目を配置している。
		看護学科
		専門導入科目
		・専門教育を学習するために必要となる生物と化学に関する基礎的な知識の習得を図るために 2 科目を配置している
		専門基礎科目
		・看護専門職になるために共通して必要な基礎的知識や実践能力を養うため、「人間と健康」12 科目および「環境と健康」7 科目の 2 領域を配置している。
		専門科目
		・看護師としてのものの見方や考え方、基本的な看護技術、看護理論、多様な場での看護実践と研究方法を身につけるため、「看護の基本」8 科目、「看護の展開」19 科目、「看護の統合・看護の発展」16 科目、「公衆衛生看護」6 科目、「看護の研究」2 科目の 5 領域を配置している。

ビジネス学部の専門教育課程では、地域発展に資する人材育成の観点から、職業イメージを意識し、「経営コース」、「公共コース」の2コース、「経営コース」の下に「起業家・ビジネスプログラム」、「IT・Web クリエイティブプログラム」、「農業経営プログラム」、「公共コース」の下に「公共経営プログラム」、「教育職プログラム（商業・情報）」を設置している。専門教育科目を学ぶ上で学問体系上最も基礎的な位置づけにある「経営学」、「経済事情」、「会計総論」、および「研究演習」など17科目を「学部必修」科目としている。選択科目では、企業経営の経験者が実務の視点から解説を行う「中小企業・ベンチャー企業論」、「イノベーションマネジメント」とともに、企業や自治体での就業体験や研修などを通じ地域全体をキャンパスとして学ぶ「インターンシップ」、「ビジネスフィールドワーク」、「ビジネス特論Ⅰ（地域活性化システム論）」など実践的な科目も配置している。【資料2-2-5】八戸学院大学履修規程（第4条）

ビジネス学部では、上記専門教育科目について、必修科目23科目40単位、選択科目54単位の修得を卒業要件としている。【資料2-2-6】八戸学院大学履修規程（第12条）

健康医療学部人間健康学科の専門教育課程では、「こころとからだの健康と医療についての学びをふまえ、幅広い分野の研究・指導・実践ができ、地域住民の健康増進と地域の保健医療の向上に貢献できる人材を育成する」という教育目的を達成するために、少子高齢化により高まっている健康ニーズに対応できる能力を育成する観点から、「スポーツ科学コース」と「健康科学コース」の2コースを設置している。「スポーツ科学コース」の下に「教育職プログラム（保健体育）」、「トレーニング指導者プログラム」、「健康科学コース」の下に「教育職プログラム（養護・保健・看護）」、「認定心理士プログラム」、「社会福祉士プログラム」を設置している。専門教育科目を学ぶ上で学問体系上最も基礎的な位置づけにある「健康医療総論」、「生命と倫理」、「人間発達学」、「健康管理論」、「健康教育論」、「健康栄養学」および「研究演習」などを「学科必修」科目としている。

高度な実践力を必要とする人材育成のため、専門教育課程の「選択科目」には、講義科目のほか、「実習」、「実験」、「実技」の科目を配置している。実習・実験科目は「心理学実習」、「看護学臨床実習Ⅰ・Ⅱ」、「相談援助実習」、「健康科学実習」、「心理学基礎実験」があり、体育実技科目は「基本実技」、「武道Ⅰ（柔道）」、「武道Ⅱ（剣道・弓道）」、「ダンス」、「水泳」、「スキー」、「スケート」、「陸上競技」、「フットボールスポーツ」、「バスケットボール・バレーボール」、「ラケット・バットスポーツ」、「器械体操」がある。【資料2-2-7】八戸学院大学履修規程（第4条2）

健康医療学部人間健康学科では、上記専門教育科目について、必修科目27科目48単位、選択科目46単位の修得を卒業要件にしている。【資料2-2-8】八戸学院大学履修規程（第12条の2）

ビジネス学部ビジネス学科、健康医療学部人間健康学科には、学生の進路意識の醸成およびキャリア形成支援のために設けられたキャリア教育科目として「キャリアデザイン」がある。「キャリアデザイン」は、Ⅰ～Ⅵまでが必修科目であり、1年生には「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」、2年生には「キャリアデザインⅢ・Ⅳ」、3年生には「キャリアデザインⅤ・Ⅵ」が配当されている。4年生配当の選択科目である「キャリアデザインⅦ・Ⅷ」では、キャリアガイダンスとキャリアデザインの観点からキャリア形成支援の深化を図っている。【資料2-2-9】八戸学院大学履修規程（第12条）、八戸学院大学履修規程（第12条の2）

健康医療学部看護学科の教育課程は、看護師養成課程、保健師養成課程、臨地実習に係わる履修規程に沿って専門教育科目が配置されている。専門教育科目は「専門導入科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」の科目群から編成されている。4年間の授業を通して、看護師に必要な知識と技術を身につけることができるように、授業科目は講義から演習、演習から実習へと展開している。

「専門導入科目」では、専門教育に必要な基礎知識の修得を図るために、「看護教育のための生物基礎」、「看護教育のための化学基礎」いずれか1単位を選択必修科目としている。

「専門基礎科目」では、看護専門職になるために共通して必要な基礎的知識や実践能力を養うための科目群として、「人間と健康」、「環境と健康」の2領域を設けている。このうち、「人間と健康」領域の「健康医療総論」など12科目を必修科目としている。また、「環境と健康」領域においては「社会福祉論」など7科目を設け、そのうち6科目を必修科目としている。選択科目の「保健統計学Ⅱ」は、保健師養成課程における必修科目である。

「専門科目」は、看護師・保健師としてのものの見方や考え方、基本的な看護技術や研究方法を身につけることを目的として、「看護の基本」、「看護の展開」、「看護の統合・看護の発展」、「看護の研究」、「公衆衛生看護」の5領域により構成されている。「看護の基本」領域においては、「看護学概論」などの講義科目と「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」の実習科目の計8科目を必修科目としている。「看護の展開」領域では、成人看護、高齢者看護、小児看護、母性看護、精神看護、在宅看護の領域に渡ってそれぞれ講義科目と実習科目が必修科目として設置されている。「看護の統合・在宅看護」領域においては、「在宅看護」に係わる科目群3科目を必修科目としている。「看護の統合・看護の発展」領域においては、「統合看護論」などの講義科目と「統合看護実習」の実習科目の計13科目を設け、そのうち8科目を必修科目としている。「公衆衛生看護」領域においては、「公衆衛生看護学概論」などの講義科目と「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」の実習科目の計6科目を設けている。「看護の研究」領域においては、「看護学研究法」、「看護卒業研究」を必修科目としている。【資料 2-2-10】八戸学院大学履修規程（第4条3）

健康医療学部看護学科では、上記専門教育科目について、必修科目101単位および選択必修科目1単位を修得することを卒業要件としている。【資料 2-2-11】八戸学院大学履修規程（第12条の3）

リベラルアーツ科目は、建学の精神に則り、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するために多様な科目を配置している。科目の特性に応じて「導入教育」、「外国語を学ぶ領域」、「人としてのあり方を学ぶ領域」、「社会のあり方を学ぶ領域」、「自然と科学を学ぶ領域」に区分している。

「導入教育」では、建学の精神に基づいて、「宗教学」、「キリスト教概論」の2科目を必修科目として配置している。また、様々なリテラシーを身につけるため、必修科目として、演習・実習を重んじた「基礎演習」、「プレゼンテーション」、「情報処理基礎」を配置している。さらに、基礎的な語彙力・表現力の向上を目的に必修科目の「日本語リテラシー」と選択科目の「日本語表現リテラシー」を配置している。健康医療学部には、上記7科目に加え、地域文化の歴史と特性、地域発展に貢献した先人の事例、地域活性化の現状と課題の解決策などについて学修することを主たる目的とした「地域文化論」が必修科目として配置されている。以上、ビジネス学部ビジネス学科は7科目、健康医療学部は8科

目で「導入教育」を構成している。

「外国語を学ぶ領域」、「人としてのあり方を学ぶ領域」、「社会のあり方を学ぶ領域」、「自然と科学を学ぶ領域」に区分される科目は、原則としてリベラルアーツの選択科目として配置され、オリエンテーションにおいて多様な領域の科目の履修を促している。なお、「外国語を学ぶ領域」については、「英語」、「ドイツ語」のいずれかの言語 2 科目を修得することを卒業要件としている。【資料 2-2-12】八戸学院大学履修規程（第 11 条）

健康医療学部人間健康学科では、専門教育科目の入門科目として「自然科学概論」を必修科目としている。

健康医療学部看護学科では、人間理解のための科目として「哲学」、「心の科学」のいずれかを選択必修、社会理解のための科目として「社会学」、「国際関係論」のいずれかを選択必修とし、自然科学の基礎理解のための科目として「自然科学概論」を配置し、履修させている。【資料 2-2-13】八戸学院大学履修規程（第 11 条 2）、八戸学院大学履修規程（第 11 条 3）

● 教授方法の工夫・開発

教授方法の工夫・開発として、リベラルアーツのリテラシー科目である「日本語リテラシー」および「情報処理基礎」では、学生の学修効果を高めるためにクラス分けを実施している。「日本語リテラシー」では、入学年次オリエンテーションで行う一般常識調査の結果を参考にして、基礎演習を単位としてクラス編成を行っている。また「情報処理基礎」でも、パソコン等の利用歴に関するアンケートに基づいて学科ごとに習熟度別の 2 クラス編成を組んでいる。【資料 2-2-14】平成 29(2017)年度新入生対象「一般常識調査」の採点結果について

本学では各学年を春学期と秋学期に分け、原則として学期ごとに授業を完結して成績を評価する「セメスター制」を採用している。【資料 2-2-15】八戸学院大学履修規程（第 7 条）

● 単位制度

適正な学修時間を確保するため、1～3 年次は各学期に履修することができる科目の単位数の上限を「キャリアデザインⅠ～Ⅷ」を除く 24 単位としている。【資料 2-2-16】八戸学院大学履修規程（第 8 条）

また、大学設置基準第 27 条の 2 第 2 項に基づき、本学でも履修規程第 9 条第 2 項に「所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められる学生については、教授会の審議を経て、学長が高次のセメスターで開講される科目の履修を認めることがある」と定めている。

【資料 2-2-17】八戸学院大学履修規程（第 9 条 2）

さらに、他学部の専門教育科目の履修を認め、30 単位を限度に所属する専門教育科目区分の必要単位数に算入できることにしている。【資料 2-2-18】八戸学院大学履修規程（第 13 条）

加えて、本学では、八戸学院大学短期大学部、八戸工業大学、放送大学と単位互換協定を締結している。【資料 2-2-19】八戸大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書、八戸大学と八戸工業大学における単位互換に関する協定書、八戸大学と光星学院八戸短期大学における単位互換に関する協定書

(3) 2-2 の改善・向上方策（将来計画）

本学の教育理念、教育目的、教育目標を踏まえ、高等教育を取り巻く諸課題などの時代的要請に応えていくため、教育課程については、教育センター、教務委員会において随時検討し、学部・学科の特性に配慮して必要があれば速やかに見直しを行う。

2-3 学修及び授業の支援

＜2-3 の視点＞

2-3-① 教員と職員の協働並びに TA(Teaching Assistant)等の活用による学修支援及び授業支援の充実

(1) 2-3 の自己判定

基準項目 2-3 を満たしている。

(2) 2-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-3-① 教員と職員の協働並びに TA(Teaching Assistant)等の活用による学修支援及び授業支援の充実

本学の教員により構成される教学部門の組織は、以下のとおりである。学長、教授会の下に、教育センター、学生支援センター、キャリア支援センターが組織されている。

教育センターの下に、教務委員会、教養教育運営委員会、ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下、FD 委員会）が設置され、学生支援センターの下に、学生委員会、国際交流支援委員会が置かれている。また、キャリア支援センターの下に、広報委員会、入学試験運営委員会、就職支援委員会が設置され、各所掌業務を担当している。

さらに、学長直轄の委員会・室として、入学者選抜委員会、研究推進委員会、研究倫理委員会、特別学生支援室が組織され、各所掌業務を担当している。

職員が担当する教学部門の組織は、事務局長の下に、学務部が置かれ、学務課、教務学生課、キャリア支援課、情報メディア課が設置されている。教育センター、学生支援センター、キャリア支援センターおよび学長直轄の委員会・室を担当する職員と教員が協働して教学部門の運営を行っている。【資料 2-3-1】平成 29(2017)年度八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部校務分掌

学修支援については、教務委員会と教務学生課が中心となり、セメスター開始時にオリエンテーションを実施している。オリエンテーションでは、入学時に配布する「学生生活ハンドブック（学生便覧）」や年度初めに配布する「Campus Life（教務関係）」を活用している。新入生に対しては、履修規程に基づき教務に係わるオリエンテーションを丁寧に行っている。また、履修登録期間を十分に設け学生個々の相談に応じながら履修指導を行っている。【資料 F-5】学生便覧、【資料 2-3-2】平成 29 年度オリエンテーション八戸学院大学 Campus Life 教務関係（1・2 年生用）、同（3・4 年生用）

履修登録の際、学生には卒業や資格取得等に必要な履修科目、単位数および科目の順序性を示した「ナンバリング表」に基づき必要な科目、単位数を確認させている。さらに、カレッジアドバイザーとともに再確認することで、履修指導の徹底を図っている。【資料 2-3-3】平成 29(2017)年度ナンバリング表

毎月定期的に開催される各学科の会議の中で、科目の出席状況、指導を要する学生に関

する情報共有を図り、中途退学者、休学者および留年者への対応と未然防止に役立てている。また、教職員間で学生の情報をより効果的に共有するため、平成 27(2015)年 5 月から「はちがくキャンパス WEB」の「学生カルテ」機能を使用できるようにし、平成 29(2017)年 3 月教授会で学生支援センター長より「学生カルテ」の「学生相談」機能の活用に関わる注意事項を周知した。【資料 2-3-4】Web 学生カルテシステム教員用操作手順書、【資料 2-3-5】学生カルテの「学生相談」機能の利用に関するお願い

教務委員会のリメディアル教育推進担当と教務学生課が中心となり、大学生活に向けた自覚と意欲の喚起を図り、本学での学修にスムーズに移行させるため、リメディアル教育を行っている。平成 29(2017)年度推薦入学試験における入学生には、共通課題として、現代文の課題と課題図書に対する感想文を課した。加えて、健康医療学部人間健康学科入学生には、生物に関する課題図書に対する感想文を課し、健康医療学部看護学科入学生には、生物(生理学・人体の構造)に関する課題を課した。健康医療学部看護学科の生物の課題については、講義開始の前に課題に対する解説を実施することで学生にフィードバックを行った。なお、今後のリメディアル教育の課題や運営方法を検討する材料にするため、平成 29(2017)年度入学生にアンケートを行った。【資料 2-3-6】入学前リメディアル教育の課題、【資料 2-3-7】リメディアル教育に関するアンケート

本学では、TA (Teaching Assistant) に相当するものとして、「八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部学内ワークスタディ規程」に基づき、学生アルバイトとして教育研究活動および修学環境整備に係る補助が行われている。平成 28(2016)年は、人間健康学科スポーツ科学コースにおける「トレーニング総論」、「陸上競技」、「ラケット・バットスポーツ」の講義補助として 1 名、特別学生支援室で学修する学生のノートテイクの補助学生 1 名が規程に沿って一定期間従事した。【資料 2-3-8】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部学内ワークスタディ規程、【資料 2-3-9】学内ワークスタディ募集資料、【資料 2-3-10】ワークスタディ勤務状況報告書

本学の学修支援体制の組織図は、図 2-3-1 のとおりである。

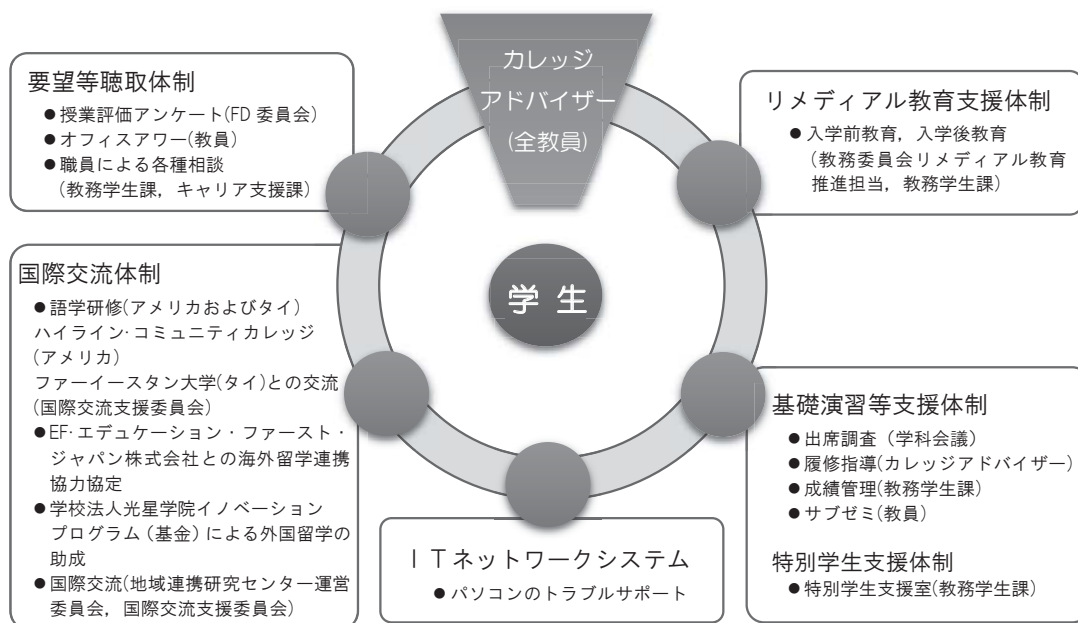


図 2-3-1 学修支援体制の組織図

授業支援および学修支援のために、講義棟、八戸学院図書館（以下、図書館）、学生食堂などキャンパス内に、無線 LAN のアクセスポイントを多数設置している。これにより、一般教室においてパソコンをインターネットに接続できる学修環境を整えている。また、情報メディア課が適宜パソコンのトラブルに対応し、学生の学修支援として IT ネットワークシステム環境を維持している。

学生は「はちがくキャンパス WEB」上で、履修登録、シラバスの閲覧、成績の確認ができる。また、学事暦や時間割、講義日程変更や教室変更、休講情報や集中講義の情報、講義の課題、講習会、各種説明会の日程などを確認している。さらに、講義の課題提出、アンケートの回答なども「はちがくキャンパス WEB」で行っている。教員は成績入力や出席簿作成ができるほか、授業教材の配布やアンケートの実施などが可能であり、遠方より通学する学生への情報提供や学修支援に活用している。【資料 2-3-11】「はちがくキャンパス WEB」

教員による学修支援としては、学生の意見等をくみ上げる仕組みとして、カレッジアドバイザーの支援に加え、オフィス・アワー制度を導入している。全教員が週 1 回以上、曜日と時間帯を指定して研究室に在室し、訪れる学生の各種相談を受ける体制を整えている。事務による学修支援としては、教務学生課、キャリア支援課が各種相談の窓口となって日常的に対応している。【資料 2-3-12】平成 29(2017)年度オフィス・アワー一覧

(3) 2-3 の改善・向上方策（将来計画）

入学およびセメスター開始時には、引き続き丁寧な履修指導を行う。また、カレッジアドバイザーによる学生に関する情報交換を定期的に行い、全教員がきめの細かい学修支援を継続していく。学内ワークスタディの活用により、受講者の多い科目や演習科目などに講義補助者を配置することで、学修および授業支援を引き続き充実させていく。時間割およびクラス分けには、臨機応変に対応するとともに、IT ネットワークシステムの利用の研修を継続的に開催し、学修支援への活用を教員に促す。

2-4 単位認定、卒業・修了認定等

＜2-4 の視点＞

2-4-① 単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用

(1) 2-4 の自己判定

基準項目 2-4 を満たしている。

(2) 2-4 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-4-① 単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用

本学学生の卒業に必要と定められた単位数は、表 2-4-1 のとおりである。ただし、健康医療学部人間健康学科の平成 28(2016)年度からの入学生については、下表の単位数に加えて、リベラルアーツの選択科目および専門教育科目の選択科目の中から 4 単位以上を修得しなければならない。【資料 2-4-1】八戸学院大学学則第 11 条、平成 26 年度版学則第 11 条

表 2-4-1 卒業に必要な単位数

区分		リベラルアーツ			専門教育科目		
		必修科目	選択科目	合 計	必修科目	選択科目	合 計
ビジネス学部	ビジネス学科(1・2)	12 単位	18 単位	30 単位以上	40 単位	54 単位	94 単位以上
	ビジネス学科(3・4)	12 単位	18 単位	30 単位以上	44 単位	50 単位	94 単位以上
健康医療学部	人間健康学科(1・2)	12 単位	14 単位	26 単位以上	48 単位	46 単位	94 単位以上
	人間健康学科(3・4)	12 単位	18 単位	30 単位以上	50 単位	44 単位	94 単位以上
	看護学科	10 単位	16 単位	26 単位以上	101 単位	1 単位	102 単位以上

本学で開講している授業科目（講義、演習、実習、実技）は、大学設置基準第 21 条第 2 項に基づいた適切な授業時間数を確保している。「講義および演習については、15 時間から 30 時間までの授業をもって」、「実習および実技については、30 時間から 45 時間までの授業をもって」、それぞれ 1 単位とすると定めている。

この時間数を確保するため、履修規程第 8 条には、「1 年次から 3 年次までの各学期（第 1 セメスターから第 6 セメスター）において履修することのできる科目の単位数は、各 24 単位以内とする。ただし、当該学期に集中して行われる講義および教職専門科目、キャリアデザインⅠ～Ⅷは含まない」と定めている。【資料 2-4-2】八戸学院大学学則第 9 条、【資料 2-4-3】八戸学院大学履修規程（第 8 条）

また、履修規程第 9 条第 2 項に基づき、秀・優の割合が 8 割以上の学生に対して、高次のセメスター配当科目の履修を認めている。【資料 2-4-4】八戸学院大学履修規程（第 9 条 2）、【資料 2-4-5】平成 29 年度オリエンテーション八戸学院大学 Campus Life 教務関係（1・2 年生用）、同（3・4 年生用）

また、編入、転入した学生に対しては、履修規程第 8 条第 3 項において、履修できる科目の単位数の上限は定めていない。【資料 2-4-6】八戸学院大学履修規程（第 8 条 3）

教育上有益と認められた場合、他の大学や短期大学、高等専門学校の専攻科で修得した単位や入学前に本学の科目等履修生として修得した単位は、本学の授業科目の単位として認定している。また、本学の学生が外国の大学や短期大学に留学して修得した単位も本学の授業科目の単位として認定している。【資料 2-4-7】八戸学院大学学則第 21 条～第 25 条

上記授業科目の履修終了の認定と成績評価基準については、学則第 15 条、第 16 条および第 17 条に記載されている。第 15 条では、「授業科目の履修終了の認定は、試験または論文による。ただし、実験、実習、演習および実技は、平常の成績によって認定することができる」と履修の認定の基準を定めている。第 16 条では、「秀（90 点以上）、優（80 点以上 90 点未満）、良（70 点以上 80 点未満）、可（60 点以上 70 点未満）および不可（60 点未満）とし、可以上を合格とする」という 5 段階の成績評価基準を定めている。なお、GPA(Grade Point Average)を成績表に明記している。成績に占める秀・優取得率と GPA 値は、学業特待生の審査に活用している。【資料 2-4-8】平成 29 年度オリエンテーション八戸学院大学 Campus Life 教務関係（1・2 年生用）、同（3・4 年生用）

学則第 17 条では履修の認定に係る出席の扱いについて、「各授業科目について授業時数の 3 分の 1 以上欠席した者は、その授業科目履修の認定を受けることができない場合がある」と定めている。履修の認定および成績評価については、これらの学則の条文に則って厳格に行われている。【資料 2-4-9】八戸学院大学学則第 17 条

個々の授業科目の評価方法は、シラバスに明記している。【資料 F-12】履修要項、シラバス

成績評価と履修の認定について、透明性を確保するために学生が成績に対して申立てをすることを認めている。学生は成績発表後、「成績に関する申立書」により、担当教員に成績に関する不明な点の調査を依頼することができる。申立てを受けた担当教員は申立て日から 1 週間以内に文書で回答することになっている。【資料 2-4-10】「成績に関する申立書」様式

学則に則った成績評価と履修の認定、およびディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に基づき、本学では卒業判定および学位の授与を行っている。

本学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）は表 2-4-2 のとおりである。

表 2-4-2 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

大 学		「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神に基づき、幅広く深い教養および総合的な判断力と豊かな人間性を身につけている。 - 現代社会が求めるニーズを的確にとらえ、それぞれの専門的分野において自己の社会的役割を認識し、地域社会の発展に寄与することができる。
	ビジネス学部 ビジネス学科	「読む、書く、聞く、話す、IT を用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、経営・会計・情報・商業等のビジネス学の基礎を身につけている。 - 地域課題を発見し、分析し、解決するために、公益性・実践力・専門性・採算性の能力を身につけている。 - 地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。
	健康医療学部 人間健康学科	- 豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。 - こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。 - 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。
	健康医療学部 看護学科	- 豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。 - 科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。 - 僻地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。 - 地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

【資料 F-5】学生便覧

学則に則った成績評価、履修の認定を基礎資料として、例年 2 月下旬に教授会（卒業判定会議）で、卒業年次（4 年次以上）の各学生が卒業要件を満たしているかを学則第 26 条に則り厳格に審議している。

教授会の審議を経て学長が卒業を認定した者に対して、学士の学位を授与する。【資料 2-4-11】八戸学院大学学則第 27 条

学位名称は、ビジネス学部が「学士（ビジネス学）」、健康医療学部人間健康学科が「学士（人間健康学）」、健康医療学部看護学科が「学士（看護学）」である。【資料 2-4-12】八戸学院大学学位規程

(3) 2-4 の改善・向上方策（将来計画）

今後も学則および履修規程に則り、成績評価の透明性を確保し、単位認定を行う。また、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）のもと、厳格な卒業認定を継続して行っていく。

2-5 キャリアガイダンス

《2-5 の視点》

2-5-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制の整備

(1) 2-5 の自己判定

基準項目 2-5 を満たしている。

(2) 2-5 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-5-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制の整備

本学は、入学者に対して、卒業まで一貫した専門的なキャリア支援等を日常的に行うことを目的にキャリア支援センターを設置している。本センターのキャリア支援に関する業務内容は、以下のとおりである。【資料 2-5-1】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部キャリア支援センター規程

- 1) キャリア支援体制のあり方および学生の就職支援、相談指導のための方策について企画・調整に関すること
- 2) 学生の就職相談、進路相談および就職先等の開拓に関すること
- 3) インターンシップについての調査・研究および受入企業等の開拓に関すること
- 4) 学生のキャリア支援全般に関すること

就職支援委員会、カレッジアドバイザーおよびキャリア支援課が連携を図りながら、学生の状況・情報を共有し、進路相談・助言を行っている。また、資料室を設けており、学生は、企業情報ファイルや就職に関する資料の閲覧、パソコンを活用して就職情報検索等ができる。また、求人情報や会社説明会等に関する情報は、随時、この資料室内外の掲示板に掲示しているほか、「はちがくキャンパス WEB」の「お知らせ」、キャリア支援課が管理する Facebook のページに掲載している。【資料 2-5-2】Facebook ページ「八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部キャリア支援課」

教育課程内で行われているキャリア教育は、以下のとおりである。

● キャリアデザインⅠ～Ⅷ

平成 26(2014)年度から、ビジネス学科・人間健康学科に在籍する 1 年生を対象として「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を両学科合同で開講し、受講者のキャリアとライフデザイン、学業生活、卒業後の労働および社会との関わりについての理解を促し、学ぶことに対する動機づけを行っている。

また、平成 27(2015)年度から、2 年生を対象として「キャリアデザインⅢ・Ⅳ」を開講し、学科ごとに専門性や将来像も異なることから、学科別の授業を展開し、キャリアとライフデザインについて、具体的に学ぶことを目的としている。授業内容については、学科の教員や外部講師の講話とグループワークやディスカッションを通じて、学生がコミュニケーション能力を高めるとともに、キャリアについて自らの問題として捉えられるよう工夫している。

平成 28(2016)年度から、3 年生を対象として「キャリアデザインⅤ・Ⅵ」を、ビジネス学科・人間健康学科ともに開講している。ビジネス学科は、将来の進路を明確にし、その進路を実現するために必要なことを学生自身が説明し、その進路に向かって自ら行動できることを学習目標(到達目標)としている。また、人間健康学科は、自己形成に関する方法と意義の理解、それにより将来設計の組み立てができることなどを学習目標(到達目標)としている。「キャリアデザインⅠ～Ⅵ」においては、学期末にキャリアシートを完成させ、学期ごとでの進路希望や学びを振り返り、次学期以降の学びを明確化する取り組みを行っている。

キャリア教育の重要性に鑑み、「キャリアデザインⅠ～Ⅵ」はビジネス学科・人間健康学科の必修科目としている。「キャリアデザインⅦ・Ⅷ」は、選択科目としている。【資料 2-5-3】平成 29(2017)年度 キャリアデザインⅠ～Ⅷシラバス

なお、平成 26(2014)年度に、直近 3 年間、平成 23(2011)年 4 月から平成 25(2013)年 4 月に本学卒業生が入社した企業(172 社)を対象に、「卒業生に対する就職先からの評価」についてアンケート調査を実施した。回答は 64 社、回収率は 37%であった。採用で重視する点についての回答では、コミュニケーション能力が最上位に位置していた。この結果を基にキャリア教育の内容を協議し、平成 27(2015)年度から、キャリア教育として「キャリアデザインⅢ・Ⅳ」でグループワークやディスカッション等、自らの考えをまとめ、話し、伝えるというコミュニケーション能力を高める内容を実施している。【資料 2-5-4】八戸学院大学卒業生評価アンケート調査結果

● インターンシップ

学生が自らのキャリア・職業選択を考える手掛かりを獲得すること、また、社会から見た自らの評価を知り、自己理解を深めることを目的とし、3 年次配当科目として「インターンシップ」を選択科目として開講している。【資料 2-5-5】平成 28(2016)年度 インターンシップ企業・団体等一覧

教育課程外で行われているキャリア教育は以下のとおりである。

● 教員採用試験対策講座

外部講師による教員採用試験対策講座(全 10 回)を開講した。受講者は、養護教諭一種免許を目指す学生、高等学校教諭一種免許(保健体育)取得を目指す学生、中学校教諭一種免許(保健)および高等学校教諭一種免許(保健) 取得を目指す学生である。【資料 2-5-6】平成 28(2016)年度 八戸学院大学・八戸学院短期大学教員採用試験対策講座日程

● 公務員試験対策講座

外部講師による公務員試験対策講座(全 10 回)を開講した。【資料 2-5-7】平成 28(2016)年度 八戸学院大学・八戸学院短期大学公務員試験対策講座日程

● 資格取得講座

SPI 適性試験対策講座や日商簿記検定受験対策などの講座を開講した。【資料 2-5-8】平成 28(2016)年度 夏期・春期資格取得講座一覧表

● 社会福祉士国家試験対策講座

外部講師による社会福祉士国家試験対策講座(全 4 回)を開講した。【資料 2-5-9】平成 28(2016)年度 「社会福祉士国家試験対策特別講座」実施要項

学生への就職支援は以下のとおりである。

● 就職合宿

3 年生を対象とした 1 泊 2 日の就職合宿を、毎年度実施している。学生が緊張感を持続し集中的に多くのプログラムに取り組めるよう、ホテルにおいて行っている。22 回目となる平成 28(2016)年度就職合宿においても、各々の学生の希望に合致した学びを提供するため、一般企業コース・公務員コース・教員コースのなかから選択させ、コース別座談会を実施した。また、プログラムは講義形式のみでなく、就職活動の流れや面接の受け方、自己分析、模擬面接などについては演習形式を取り入れたものにした。講師は、外部のキャリアアドバイザーや企業の採用担当者が担当した。【資料 2-5-10】平成 28(2016)年度 八戸学院大学第 22 回就職合宿パンフレット

● 合同企業説明会

4 年生を対象とした合同企業説明会を毎年度、本学において実施している。学科ごとのコース・プログラムの特性と学生のニーズを考慮したうえで、各企業へ参加を依頼し、参加企業ごとに面談を行っている。【資料 2-5-11】平成 28(2016)年度 八戸学院大学・八戸学院短期大学合同企業説明会 参加企業紹介要項

● 就職説明会

3 年生を対象とした就職説明会を毎年度、市内のホテルにおいて実施している。平成 26(2014)年度から八戸学院短期大学（現校名：八戸学院大学短期大学部）看護学科と共同で開催している。【資料 2-5-12】平成 28(2016)年度 八戸学院大学・八戸学院短期大学就職説明会参加企業紹介要項

● 学内企業説明会

4 年生を対象とした学内企業説明会を企業や学生の要望に応じながら、随時実施している。【資料 2-5-13】平成 28(2016)年度 八戸学院大学・八戸学院短期大学学内企業説明会日程表

本学の過去 5 年間の就職内定率は表 2-5-1 のとおりである。

表 2-5-1 過去 5 年間の就職内定率

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ビジネス学科	98 %	100%	100%	100%	98%
人間健康学科	95 %	94%	93%	100%	100%

【表 2-10】就職の状況

過去 5 年間、両学科とも 90%以上の就職内定率を維持している。

看護学科については、学年進行中のため算出していない。

(3) 2-5 の改善・向上方策（将来計画）

過去 5 年間の就職内定率はいずれも高い水準となっており、今後もこの水準を維持する。

そのために、「キャリアデザインⅠ～Ⅷ」の授業の深化を図り、学生のキャリア形成支援に取り組むとともに、「インターンシップ」への学生の履修を促す。

また、引き続き、就職合宿、合同企業説明会、就職説明会、学内企業説明会などを継続し、学生のニーズの把握に努め、教職員間の情報共有および学生への情報発信を行うとともに、就職支援の企画・運営を行う。

2-6 教育目的の達成状況の評価とフィードバック

《2-6 の視点》

2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

2-6-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

(1) 2-6 の自己判定

基準項目 2-6 を満たしている。

(2) 2-6 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

平成 25(2013)年度から、年度当初のオリエンテーションにおいて「一般常識調査」を実施し、学生の学力、資質の把握に努めている。「国語」、「数学」、「論理」、「時事教養」、「生物」（健康医療学部学生のみ）の基礎学力を調査し、新入学生の資質を把握し、入学後の教育の基礎資料としている。【資料 2-6-1】平成 29(2017)年度新入生対象「一般常識調査」の採点結果について

本学では、各教員が作成するシラバスにおいて「教育目標（到達目標）」、「授業概要（到達目的）」、「授業計画概要」、「評価方法」、「参考文献」、「資格取得との関連」、「学生へのメッセージ」の欄を設けている。シラバスは「はちがくキャンパス WEB」上で、全ての学生、教職員が閲覧することができるほか、本学公式ホームページから閲覧可能である。シラバスの記載事項については、教務委員会でチェックし、必要に応じて教員に加筆修正を求めている。

また、ナンバリング表を用いた履修指導を行い、カリキュラムの教育効果が最大限発揮できるよう留意している。【F-12】履修要項、シラバス、【資料 2-6-2】平成 29(2017)年度ナンバリング表

教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫および開発については、FD 委員会が主体となり次のような取り組みを行っている。

● 授業評価アンケート

専任教員は、年間 1 科目以上の科目で 10 項目 4 件法および自由記述欄による「授業評価アンケート」を行っている。アンケートは学生が回収し、教務学生課に提出している。

● 公開授業

各セメスターの公開授業期間中に、教員は相互に「授業参観」して「授業評価」を行っている。公開授業期間中の1週間は学外にも一般公開している。

● FD 研修会（ワークショップ）

外部講師による講演会と特定テーマによるFDワークショップのいずれかを行っている。平成28(2016)年度は、「みんなで取り組み学び合う授業づくり」というテーマでFDワークショップを行った。

● 授業支援システム研修会

本学の授業支援システム「はちがくキャンパス WEB」の活用方法について、毎年度研修会を実施している。【資料 2-6-3】平成28(2016)年度FD報告書

学生の学習の達成状況を点検、評価するとともに、学生の学習意欲を高め、学内外での活躍を後押しするために、修得単位数や成績が一定以上の基準に達した学生に与える称号や学業成績優秀者に対する褒賞の制度を設けている。ビジネス学科、人間健康学科で指定された専門科目の単位を一定数以上修得し、かつ「秀」と「優」の割合が6割以上の学生に、「八戸学院大学ビジネスマイスター」、「八戸学院大学健康マイスター」の称号を与えている。平成29(2017)年度からは、原則3年次春学期までの累計GPA2.5以上の要件を加えた。

また、各学部において、在学中に最優秀の学業成績を修めた1名の学生に「学長賞」を、「学長賞」に次ぐ学業成績を修めた学生に「優等賞」を、学位記授与式で授与している。さらに、在学中に優秀な成績を修めた人間健康学科の学生で社会福祉士プログラムを受講した1名を、一般社団法人日本社会福祉士養成校協会に推薦し、学位記授与式で表彰している。【資料 2-6-4】2016 八戸学院大学マイスター認定授与式、【資料 2-6-5】GPAの活用について、【資料 2-6-6】平成28年度学位記授与式次第

2-6-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

教育内容・方法および学修指導等の改善へ向けて、FD委員会では、「授業評価アンケート」と「公開授業」の結果を教員にフィードバックし、教育内容・方法および学習指導等の改善に役立てる材料として提供している。具体的には、「授業評価アンケート」の集計結果は、科目ごとに教員にフィードバックし、各教員に「授業評価アンケート」の結果に対するコメントを求めている。また、教員は「公開授業」を参観した後、相互評価のためのアンケートに記入し、FD委員会に提出する。

FD委員会は、それらを集計結果とコメントとともに「FD報告書」にまとめ、図書館で一般公開している。【資料 2-6-7】平成28(2016)年度FD報告書

(3) 2-6の改善・向上方策（将来計画）

学生に対する教育・指導に役立てるため、引き続き「一般常識調査」を実施し、集計結果を全教員で共有する。

また、学生の目的に沿った主体的な学びの指針とするため、シラバスに「学習目標（到達目標）」、「授業計画概要」、「評価方法」を明示する。

GPA に関しては、教育の内部質保証への活用方法を模索する。

「授業評価アンケート」、「公開授業」、「FD 研修会（ワークショップ）」、「授業支援システム研修会」については、今後も継続して実施する。加えて、「授業評価アンケート」と「公開授業」の相互評価アンケートの結果を教育の質の向上に活用する。

2-7 学生サービス

《2-7 の視点》

2-7-① 学生生活の安定のための支援

2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

(1) 2-7 の自己判定

基準項目 2-7 を満たしている。

(2) 2-7 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-7-① 学生生活の安定のための支援

1. 学生生活支援体制

本学の学生が学業、課外活動に専念し、安定かつ充実した学生生活を送ることができるようにするための組織として、学生支援センターを設置している。その下に学生委員会、国際交流支援委員会が置かれ、具体的な活動を担っている。また、心とからだの支援体制として、保健室、学生相談室、特別学生支援室が設置されている。それらの活動を教務学生課が側面から支える体制をとっている。【資料 2-7-1】八戸学院大学学生委員会規程

本学における学生生活支援体制は、図 2-7-1 のとおりである。

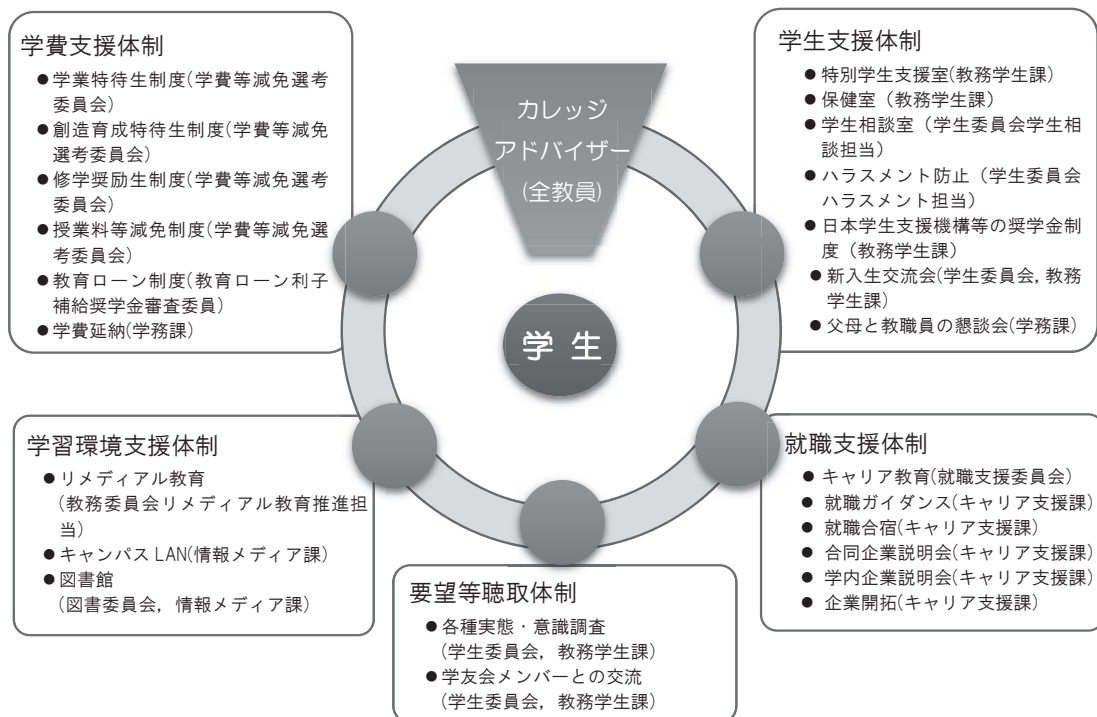


図 2-7-1 学生生活支援体制

学生支援センターでは、以下の事項を定期的に審議し、実践している。【資料2-7-2】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部学生支援センター規程

- 1) 学生の厚生補導体制のあり方および学生生活の充実、相談指導のための方策についての企画・調整に関する事
- 2) 学生指導に係る研修会・講習会、調査・研究等に関する事
- 3) 学生の国際交流に関する事
- 4) 学生のハラスメントの防止に関する事
- 5) 学生生活に係る支援全般に関する事
- 6) その他、学生支援センターに関する事

本学では、教職員間で学生の情報を共有するために、「はちがくキャンパス WEB」システム上にある「学生カルテ」を活用している。「学生カルテ」には「学生相談」の機能があり、教職員が、学生の所見、学生との面談の結果などを書き込むことができる。【資料 2-7-3】Web 学生カルテシステム教員用操作手順書

「学生相談」機能によって情報共有が促進される反面、本学には、「学生カルテ」の運用など、個人情報の保護を扱う専門の組織が存在しないため、学生のプライバシーの保護に関する課題がある。

そこで、平成 29(2017)年 3 月開催の教授会において、「学生相談」機能を利用する際、学生のプライバシーに十分配慮するよう、また、「学生相談」機能で閲覧可能な学生個人の指導記録については学生指導の目的に限定し、利用するよう、さらに、学外へ流出することのないよう呼びかけた。また、教授会の席上、個人情報の保護を専門に扱う組織（個人情報保護委員会）の設立を要望した。【資料 2-7-4】学生カルテの「学生相談」機能の利用に関するお願い

2. 学生生活支援の状況

(1) 新入生交流会

従来、新入生と先輩学生、教職員との交流の機会とすべく、1泊2日の形式で「対話合宿」を実施してきたが、平成 28(2016)年度から「新入生交流会」と名称を改め、日帰り形式で学外のホテルで実施した。【資料 2-7-5】平成 28(2016)年度における「新入生教育」の方針と進め方

平成 29(2017)年度については学内での実施とし、新入生が早い時点で大学生活に馴染めることに重点をおいたプログラムに変更した。

主な実施内容として、従来からのプログラムである学長講話や学長との写真撮影に加え、学歌指導、基礎演習のメンバーや担当教員との顔合わせ、基礎演習単位での大学施設見学などを新たに設けた。【資料 2-7-6】平成 29(2017)年度新入生交流会日程

(2) 心とからだの支援

● 健康管理

学生を対象として、毎年度 4 月のオリエンテーション時に健康診断を行っている。また、健康診断については、健康医療学部の教員を校医として委嘱し実施している。校医による

健康相談は、保健室で直接申し込むか、Eメールにより学生からの予約を随時受け付けている。

学生は、平日の一定の時間帯(8:40～17:30)に、保健室を利用することが可能であり、保健室勤務の経験を持つ准看護師が職員として常駐している。**【表 2-12】学生相談室、医務室等の利用状況**

● 学生相談

学生生活全般の相談事項については、カレッジアドバイザーおよび教務学生課職員が、訪れる学生の各種相談を随時、受ける体制を整えている。また、専門的見地から相談を要する学生のために八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部合同で学生相談室を設置している。学生相談室は、心理学分野の教員、福祉分野および看護学分野の国家資格を有する教員で構成されている。また、学生相談室における相談は、Eメールにより随時予約を受け付けている。さらに、学生相談に関するリーフレットを作成し、学生に配布し説明している。**【表 2-12】学生相談室、医務室等の使用状況、【資料 2-7-7】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部学生相談室規程、【資料 2-7-8】学生相談室利用案内**

● ハラスメント対応・防止

ハラスメント防止の一環として、平成 28(2016)年 7 月に教職員向けの「ハラスメント研修会」を開催した。**【資料 2-7-9】学校法人光星学院ハラスメント防止等に関する規程、【資料 2-7-10】平成 28 年度八戸学院大学・八戸学院短期大学ハラスメント研修会報告書**

ハラスメントに関する相談は、Eメールにより学生相談・ハラスメント担当が随時予約を受け付けている。学生に対しては、ハラスメントやハラスメント相談に関するリーフレットを配布し説明している。**【資料 2-7-11】ハラスメント相談のご案内**

また、ハラスメントの相談員に対する予約の方法は、リーフレットや「学生生活ハンドブック（学生便覧）」などに記載されており、面談を希望する相談員を相談者が選択できるようになっている。

● 学内全面禁煙化

喫煙および副流煙による健康被害を防止する観点から、本学および八戸学院大学短期大学部が立地するキャンパスにおいて、平成 29(2017)年 4 月以降、「全面禁煙化」に本格的に移行した。**【資料 2-7-12】平成 29 年度よりの「学内全面禁煙化」への移行**

学生委員会で罰則の運用等についても審議し、罰則を厳密化するのではなく、学生自身が喫煙の健康被害を理解するよう禁煙の啓発教育を行う方針を決定した。

禁煙教育として、日本呼吸器学会によるパンフレット（「タバコについて考えてみませんか」）をオリエンテーション時に配布し、さらに、同学会作成の DVD（「今から始める喫煙防止教育 STOP SMOKING」）を視聴させた。**【資料 2-7-13】「タバコについて考えてみませんか」日本呼吸器学会によるパンフレット**

(3) 障害を持つ学生への支援

障害を持つ学生を支援するため、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部両学長直轄の組織である「特別学生支援室」が設置され、室員は教職員によって構成される。本学および八戸学院大学短期大学部に在籍する全ての学生（科目等履修生、研究生を含む）のうち、身体障害、発達障害などの障害またはそれに準じる障害などがあるため、授業や学生生活

に制限を受ける者で本人より申し出があり、かつ本学が必要性を認めた場合に支援を行っている。平成 29(2017)年度当初において対象学生は在籍していない。特別学生支援室として、配慮の必要な学生に関する情報交換、先行する大学の取組状況の情報収集を行い、また、教務学生課と連携しながら、学生への制度の周知をし、年度途中での申し出に対応できるよう準備を行っている。【資料 2-7-14】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部障害学生修学支援規程、【資料 2-7-15】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部特別学生支援室設置要項

(4) 経済的支援（奨学金等）

本学における学生への経済的支援としては、日本学生支援機構の奨学金制度をはじめ、本学独自の奨学金が用意されている。

日本学生支援機構奨学金受給者については、「八戸学院大学日本学生支援機構奨学生推薦選考規程」に定める標準修得単位に満たない学生や日本学生支援機構より警告に該当する学生に対し、指導を実施している。

本学独自の奨学金制度には、特待生奨学制度、修学援助制度、法人内進学生学納金等減免制度、教職員子女学納金減免制度、外国人留学生学納金等減免制度がある。

これらの支援と併せ、卒業後の奨学金の返還遅延が全国的な問題となっていることに鑑み、在学生への説明会や奨学金の新規貸与希望者（在学採用）との面談において、返還義務について繰り返し注意を促すとともに、適正な範囲での貸与を受けるよう指導している。

【表 2-13】大学独自の奨学金給付・貸与状況、【資料 2-7-16】八戸学院大学日本学生支援機構奨学生推薦選考規程、【資料 2-7-17】学校法人光星学院育英・奨学規程、【資料 2-7-18】八戸学院大学学業特待生規程、【資料 2-7-19】八戸学院大学創造育成特待生規程、【資料 2-7-20】八戸学院大学修学奨励生規程、【資料 2-7-21】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部教育ローン利子補給奨学金規程、【資料 2-7-22】八戸学院大学授業料等減免規程、【資料 2-7-23】学校法人光星学院教職員子女学納金減免規程、【資料 2-7-24】八戸学院大学私費外国人留学生授業料減免規程

本学独自の奨学金制度は、表 2-7-1 のとおりである。

表 2-7-1 本学独自の奨学金制度

特待生奨学制度	健康にして、学業成績、人物ともに優秀な学生(学業特待生)、または特に優れた技能を備えた学生(創造育成特待生)のための奨学金の給付あるいは学納金の全部または一部の納付を減免する制度
修学援助制度	①健康にして、学業成績、人物ともに良好で、かつ経済的理由により学業の継続が困難であると認められる学生(修学奨励生)のため、奨学金の給付あるいは受験料および学納金の全部または一部の納付を減免する制度
	②諸般の事情で大学への進学をあきらめていた社会人または大学での新しい学問にチャレンジする意欲のある社会人のため、入学金の納付を免除する制度
	③職業を有しており、八戸学院大学学則第 4 条に規定する年限を超えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修する学生(社会人長期履修学生)のため、入学金および教育費の納付を免除する制度
	④青森県営農大高校を修了し、農業経営プログラムの履修を目的に八戸学院大学ビジネス学部編入する学生(営農大編入学生)および農業高等学校を卒業し、農業経営プログラムの履修を目的に八戸学院大学ビジネス学部に入る学生のため、入学金の納付を免除する制度

	⑤学費の納入を目的に銀行等の教育ローン等を利用する学生(教育ローン等利用学生)のため、教育ローン等の利子の全額または一部を補給する制度
法人内進学生学納金等減免制度	①本法人の同窓生の扶養する子女等が、本法人の設置する学校に入学する場合において、入学金を給付または減免する制度 ②本法人の設置する学校から、本法人の設置する大学への入学を希望する学生および在学する学生の受験料および学納金の全部または一部の納付を減免する制度
教職員子女学納金減免制度	本法人に勤務する専任の教職員の扶養する子女が、本法人の設置する学校に入学する場合において奨学金の給付あるいは学納金の全部または一部の納付を減免する制度
外国人留学生学納金等減免制度	本法人が設置する大学、短大等へ入学する外国人(短期および長期留学を含む)のため、受験料および学納金の全部または一部の納付を減免する制度

(5) 交通安全に関する支援

● 車両による通学の許可要件

本学においては、自動車・バイクによる通学（以下、車両通学）を希望する学生は、許可を受け、登録手続きを完了し、車両通学が可能となる。また、車両通学の許可を受けるための基準として、「交通安全講習会」などの受講を定め、運用している。

【資料 2-7-25】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部車両通学規程

● キャンパス巡回指導の実施

平成 28(2016)年 12 月 1 日における車両登録台数は 332 台であり、在学生の半数近くが車両通学をしている。学生委員会が主体となり、春学期と秋学期にそれぞれ 1 回ずつ「キャンパス巡回指導」を実施している。

「キャンパス巡回指導」では、車両登録しているにも係わらず通学許可証を車両に提示していないものについては「注意」、未登録車両、駐車禁止区域に駐車している車両については「警告」の対象としている。また、「警告」を複数回受けた未登録車両については、車両ナンバーの写真を掲示し、登録を促すこととしている。それでも登録しない場合は、車両のタイヤをロックし、対象学生に対し学生委員長が面談指導するなどの措置を講じている。「キャンパス巡回指導」により、車両購入も含め、平成 28(2016)年度途中に 59 台が、新たに車両登録を行った。【資料 2-7-26】平成 28(2016)年度キャンパス巡回指導について、【資料 2-7-27】平成 28(2016)年度キャンパス巡回指導の集計結果

● 交通安全講習会の実施

本学では学生の交通安全への意識をより一層高めるため、「交通安全講習会」を春学期と秋学期のオリエンテーション時にそれぞれ 1 回ずつ実施している。

平成 27(2015)年からは、車両通学の有無に関係なく全学生の受講を義務付けている。

(6) 課外活動の支援

課外活動の主体は学生の自治組織である学友会であり、平成 29(2017)年 5 月 1 日現在、クラブ（体育会・文化会）17 団体、サークル（同好会・愛好会）14 団体が属している。

【資料 2-7-28】平成 29(2017)年度クラブ・サークル顧問・監督等委嘱一覧、【資料 2-7-29】八戸学院大学課外活動規程、【資料 2-7-30】八戸学院大学学友会規約

● 学友会組織の役割と活動

学友会の執行委員会が中心となり、新入生交流会、学生大会、スポーツ大会、秋桜祭（大学祭）、キャンパスクリスマス企画、クラブおよびサークルの支援の事業を行っている。

学友会が主催するクラブ・サークル活動報告会では、学友会の執行委員会および各クラブ・サークルの代表者、顧問、監督が一堂に会し、当該年度における顕著な活動成果を挙げた団体、個人を表彰している。【資料 2-7-31】平成 28(2016)年度クラブ・サークル活動報告会資料

● 学友会活動への支援

学友会の活動を支えるため、「八戸学院大学学友会館」を整備し、学生委員会の教員、教務学生課の職員が必要に応じて指導や助言を行っている。

また、クラブ・サークル活動を支援するため、部室棟や体育館、野球場、サッカー場、室内トレーニングルーム、屋内練習場などを整備しており、必要に応じて教室も利用できるようにしている。

学友会活動の経済的原資は、学友会費であり、そのほかに大学の教育研究経費、外郭 3 団体（父母の会、後援会、同窓会）からの補助がある。

● 部活動奨励金

「部活動奨励金」は、部活動の健全な発達を図り、その成果向上を促進するための制度であり、「八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部部活動奨励金規程」に基づき、運用される。【資料 2-7-32】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部部活動奨励金規程

2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

● 学生の意見・要望の把握

大学生生活の全般に係わる事務室への連絡・相談のための「キャンパスライフ 110 番」を設置し、学内の環境整備等の要望を E メールで受け付け、対応する体制を整備している。

【資料 2-7-33】教務学生課のキャンパスライフ 110 番

● 学生生活に対する調査

平成 28(2016)年 11 月、学生生活の実態と大学に対する満足度を明らかにするために、「平成 28 年度学生生活に対する調査」を全学生対象に行った（回答数 433、回収率 69.5%）。

学生の経済的状況については、家庭からの仕送りが無いもしくは仕送りだけで学生生活を送ることが不自由または困難な学生が過半数（226 名、52.2%）を占めており、前年（196 名、55.4%）と同様、厳しい傾向を示した。このような学生生活の状況に配慮し、経済的事情を抱える学生に対する支援を行うことを目的に、学内の業務に補助的に従事させる「学内ワークスタディ」を実施している。

学内外で禁止薬物の誘いを受けたことがあると回答した学生は 14 名（3.2%）と、前年の 10 名（2.8%）を上回ったことから、学生委員会で対応策を検討し、平成 29(2017)年 4 月開催の教授会において、学生から禁止薬物の勧誘を受けた等の相談がある場合、学生委員会、または教務学生課に情報提供するよう呼びかけた。また、オリエンテーション時に薬物使用の違法性と危険性について注意を喚起した。

本学に対する満足度については、冷暖房等設備設置の要望（43 件、10%）と悪臭に対する苦情（17 件、4%）が多かった。特に冷暖房等設備設置の要望については、前年（41 件、

11.6%)と同水準であったことから、これらの結果については、教授会で報告するとともに、学校法人光星学院（以下、法人）に対して要望した。【資料 2-7-34】平成 28 年度学生生活に対する調査

(3) 2-7 の改善・向上方策（将来計画）

学生カルテなどの管轄を担う専門の委員会設置を、法人に引き続き求める。

学生相談やハラスメントの理解や対応について、教職員の理解を深めることを目的とする研修会を開催する。学生相談やハラスメントの事案に対する迅速な対応を強化するため、学生委員長の下に学生相談・ハラスメント担当をおく現行の体制の改善を行う。

冷暖房等設備に関する要望の件数が多かったことから、引き続き法人に冷暖房等設備の設置を要望する。

2-8 教員の配置・職能開発等

＜2-8 の視点＞

2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめとする教員の資質・能力向上への取組み

2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

(1) 2-8 の自己判定

基準項目 2-8 を満たしている。

(2) 2-8 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

本学の専任教員数と大学設置基準第 13 条別表 1・別表第 2 による学部の種類および規模等に基づく必要な専任教員数は、表 2-8-1 のとおりである。両学部とも大学設置基準第 7 条および第 13 条を満たしている。

表 2-8-1 大学設置基準に基づく専任教員数

学部・学科 その他の組織	専任教員数					助手	設置基準上必要 専任教員数	設置基準上必要 専任教授数
	教授	准教授	講師	助教	計			
ビジネス学部 ビジネス学科	15	6	3	0	24	0	12	6
健康医療学部 人間健康学科	10	4	3	4	21	0	11	6
健康医療学部 看護学科	7	2	4	2	15	3	12	6
大学全体の収容定員に 応じ定める専任教員数							12	6
合 計	32	12	10	6	60	3	47	24

【表 F-6】全学の教員組織

教員の年齢構成は、表 2-8-2 のとおりである。

表 2-8-2 年齢構成別専任教員数

	61 歳以上	51 歳～60 歳	41 歳～50 歳	31 歳～40 歳	30 歳以下	合計
ビジネス学部 ビジネス学科	7(0)	7(0)	6(3)	4(0)	0(0)	24(3)
健康医療学部 人間健康学科	7(3)	2(1)	4(1)	6(0)	2(1)	21(6)
健康医療学部 看護学科	8(6)	5(5)	1(1)	1(1)	0(0)	15(13)
合 計	22(9)	14(6)	11(5)	11(1)	2(1)	60(22)

※ () 内は女性教員数

教員の学位の種類は、表 2-8-3 のとおりである。

表 2-8-3 学位の種類

	博士	修士	学士	専門士	合計
ビジネス学部 ビジネス学科	6	12	6	0	24
健康医療学部 人間健康学科	7	11	2	1	21
健康医療学部 看護学科	3	11	1	0	15
合 計	16	34	9	1	60

2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめとする教員の資質・能力向上への取り組み

● 教員の採用・昇任等、教員評価

教員の採用・昇任については、「八戸学院大学教員採用・昇任規程」、「八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部任期付教育職員任用規程」に基づき、適切に運用している。採用は、定年・依願・任期満了に伴う退職者の補充あるいは教育上・組織運営上必要と認められた場合に行っている。原則公募制としており、応募者は教員選考委員会で審議され、「八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部運営会議（以下、運営会議）」を経て学長が理事長へ申請する。昇任については、職位の資格、教育・研究上の業績、在任経験年数を鑑みて、教員審査委員会で審議され、運営会議を経て学長が理事長に申請する。両委員会は、原則として学長によって指名された教授 5 人によってその都度組織される。教員評価については、「八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部教員人事考課規程」に基づき、組織上の直属の管理・監督者である学部長が、教員の一定期間における考課項目（①教育・指導力、②研究・業績、③地域社会並びに経営への貢献度）にしたがって教員評価を行い、最終的に学長が判断して、年 2 回の賞与に反映している。なお、担当授業時間数（1 授業時間＝1.5 時間）が週 5 授業時間を超える教員に対しては「増担手当」を支給している。【表 2-16】学部の専任教員の 1 週当たりの担当授業時間数（最高、最低、平均授業時間数）、【資料 2-8-1】八戸学院大学教員採用・昇任規程、【資料 2-8-2】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部任期付教育職員任用規程、【資料 2-8-3】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部教員人事考課規程

● 研修、FD (Faculty Development)

本学では教員の資質・能力向上の一環として、FD 委員会が主体となって毎年度、八戸学院大学短期大学部と合同で FD 研修会を開催している。平成 28(2016)年度は、「みんなで取り組み学び合う授業づくり」をテーマに FD ワークショップを行った。また、FD 委員会では、毎年度、新任教員と全教員を対象に「はちがくキャンパス WEB 授業支援システム研修会」を実施している。

本学は、大学間連携 FD 活動を行うプロジェクトである FD ネットワーク“つばさ”の連携校であり、各種セミナーに教員や学生が参加している。平成 28(2016)年度は、第 17・18 回 FD ネットワーク”つばさ”FD 協議会(第 9・10 回”つばさ”プロジェクト運営協議会)、第 16 回山形大学 FD 合宿セミナー、学生 FD 会議、FD 協議会に参加し、研修や情報交換を行った。【資料 2-8-4】平成 28(2016)年度 FD 報告書

● 研究活動への助成および支援

研究活動への助成として、「個人研究費」、「特別研究費」、「学校法人光星学院イノベーションプログラム（基金）研究等補助金」がある。

専任教員の「個人研究費」は、両学部とも教授・准教授・講師が 28 万円、助教が 20 万円、助手が 15 万円配分される。「特別研究費」は、申請に基づいて配分されるもので、研究課題 1 件につき 20 万円以内である。「学校法人光星学院イノベーションプログラム（基金）研究等補助金」は、毎年度理事会が補助総額を決定し、申請に基づいて配分される。

これらの研究費については、「八戸学院大学専任教員研究経費助成金取扱規程」、「八戸学院大学研究費取扱要領」、「八戸学院大学特別研究費取扱・申請要領」、「八戸学院大学特別研究費の審査に関する内規」、「学校法人光星学院イノベーションプログラム（基金）研究等補助金交付申請に係る公募要項」によって適切に運用されている。【資料 2-8-5】八戸学院大学専任教員研究経費助成金取扱規程、【資料 2-8-6】平成 29 年度八戸学院大学研究費取扱要領、【資料 2-8-7】平成 29 年度八戸学院大学特別研究費取扱・申請要領、【資料 2-8-8】八戸学院大学特別研究費の審査に関する内規

また、研究推進委員会が毎年度「科学研究費申請サポート講習会」を実施している。平成 28(2016)年度は、本学および八戸学院大学短期大学部の専任教員で科研費採択実績のある各 1 人を講師として、申請に関わる講習会を開催した。平成 29(2017)年度の申請件数は 7 件、新規採択件数は 0 件であった。

また、文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に則り、平成 27(2015)年度から毎年度、「研究倫理・コンプライアンス教育研修会」を実施している。【資料 2-8-9】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部公的研究費の管理・監査に関する規程、【資料 2-8-10】平成 28(2016)年度科学研究費申請サポート講習会プログラム、【資料 2-8-11】平成 28(2016)年度研究倫理・コンプライアンス教育研修会資料

2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

● 教養教育実施の組織・体制

教養教育については、本学および八戸学院大学短期大学部の教養教育担当者等により構成される八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部教養教育運営委員会（以下、教養教育運営委員会）が中心となり、本学における教養教育の問題点・課題の検討、他大学の教養教

育の現状について、情報収集などを行っている。【資料 2-8-12】八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部教養教育運営委員会規程

● 教養教育（リベラルアーツ）の運営

平成 26(2014)年度より、日本語の基礎的な語彙力・表現力の向上を目指す観点から教養教育（リベラルアーツ）に、「日本語リテラシー」（必修）と「日本語表現リテラシー」（選択）の 2 科目を新設した。平成 27 (2015)年度からは、「日本語リテラシー」の学習効果を測定し、科目新設の効果を検証している。検証方法としては、公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施する漢字能力検定（3 級）と同レベルの模擬問題（2 回分）を用いて、第 1 回および第 15 回の講義において試験を実施し、1 回目と 2 回目の得点を区分毎に比較している。平成 28(2016)年度は、学生のモチベーション向上と活発な学び合いを推進するために、クラス編成、授業形態、授業展開等を変えて講義を実施し、教育効果を検証した。その結果、平成 27(2015)年度と比較し、学生のモチベーションが向上し、活発な活動が見られるようになり、各学部・学科において正答率が 2 回目の試験において向上した。

一方、グループ学習では、グループ内にリーダー性を発揮する学生の有無により活動に差がみられた。グループ間の格差の解消とリーダーの育成について課題が残った。【資料 2-8-13】日本語リテラシーの教育効果について、【資料 2-8-14】日本語リテラシー授業分析

● 研修会への参加

毎年度、「東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会」に、教員が参加している。

【資料 2-8-15】第 66 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会出張報告書

(3) 2-8 の改善・向上方策（将来計画）

教育目的および教育課程に対応した教員の採用に関しては、年齢構成にも配慮する。

科学研究費採択率の向上のため、「科学研究費申請サポート講習会」を引き続き実施する。また、「研究倫理・コンプライアンス教育研修会」を今後も開催する。

FD 協議会等の外部研修会への本学教員の参加および FD 委員会による新任教員と全教員に対する授業支援システム研修会は、継続して行う。

教養教育運営委員会は、「日本語リテラシー」における、グループ内のリーダーの育成およびグループ間の格差解消に向けた取り組みについて、その効果を検証する。また、他大学の教養教育の現状などの情報収集に努め、教養教育実施のための体制の充実を図る。

2-9 教育環境の整備

＜2-9 の視点＞

2-9-① 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備と適切な運営・管理

2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

(1) 2-9 の自己判定

基準項目 2-9 を満たしている。

(2) 2-9 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-9-① 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の設備と適切な運営・管理

● 校地・校舎

平成 29(2017)年度における本学の収容定員は、ビジネス学部 320 人、健康医療学部 480 人であり、校地面積は大学設置基準面積 8000 m²に対して 66,192 m²、校舎面積は大学設置基準面積 8,396 m²に対して 12,809 m²であることから、大学設置基準第 36 条第 5 項で定める面積を十分満たしている。

校地・校舎面積は、表 2-9-1 のとおりである。

表 2-9-1 校地・校舎面積

区 分	設置基準上の必要面積	面 積	備 考
校地面積	8,000m ²	66,192m ²	運動場用地15,000m ² を含み、寄宿舎492m ² は含まない
校舎面積	8,396m ²	12,809m ²	体育館2,578m ² 、体育施設250m ² 、教職員宿舎1,571m ² を含まない

校舎等の施設は、1 号館（管理棟）、2 号館（講義棟）、3 号館（講義棟）、4 号館（総合体育館）、5 号館（大学会館）、6 号館（図書館）、7 号館（地域連携研究センター）、8 号館（総合実習館）となっている。

校舎等施設の概要は、表 2-9-2 のとおりである。

表 2-9-2 校舎等施設の概要

区 分	棟 名	階数	用 途
管理施設	1号館（管理棟）	1 F	教学事務室・法人管理事務室
		2 F	学長室・学部長室・ビジネス学科/人間健康学科研究室(29室)
教育研究施設	2号館（講義棟）	1 F	保健室・学生相談室・看護実習室・短期大学部ライフデザイン学科研究室(8室)・学生ホール
		2 F	一般教室(2室)・ゼミ室(5室)
		3 F	一般教室(3室)・ゼミ室(1室)
	3号館（講義棟）	1 F	実習室(4室)・講義室(1室)
		2 F	講義室(1室)・ゼミ室(4室)
		3 F	講義室(1室)・ゼミ室(4室)
	5号館（大学会館）	1 F	食堂・売店・キャリア支援室・就職資料室
		2 F	講義室
		3 F	会議室 ゼミ室(3室)
	6号館（図書館）	1 F	事務室・書庫・ブラウジングコーナー・チャペル
		2 F	開架書架・閲覧席
	7号館（地域連携研究センター）	1 F	事務室・サーバールーム
		2 F	実習室(1室)・男子更衣室 短期大学部ライフデザイン学科研究室(1室)
		3 F	実習室(1室)・ゼミ室(1室)
		4 F	看護学科研究室(4室)・看護学科共同研究室(2室)・学習室(1室)
	8号館（総合実習館）	1 F	事務室・女子更衣室・教室(4室)
		2 F	人間健康学科研究室(16室)・学部長室・実習室(2室)
		3 F	教室(3室)・実習室(1室)・多目的室(2室)

体育施設	4号館（総合体育館）	4 F	看護学科研究室(16室)・学科長室・実習室(2室)
		1 F	事務室・更衣室(男女)・シャワールーム(男女)・アリーナ・トレーニングルーム
		2 F	観覧席・ゼミ室(3室)・トレーニングラボ(低酸素室)

【表 2-18】校地、校舎等の面積、【表 2-19】教員研究室の概要、【表 2-20】講義室、演習室、学生自習室等の概要

● 図書館

図書館は、2階建て(1,646 m²)で、教育研究上必要とされる約 12 万冊の図書のほか、国内外の定期刊行物や視聴覚資料などを備え、学術情報の提供や他の図書館等との連携を進めている。情報メディア課が図書館の職務を担い、司書の有資格者を 2 人配置している。

1 階は雑誌の他、新刊書や文庫、新書を中心とした開架、新聞閲覧台や閲覧席のほかソファなどが設置されたブラウジングコーナー、個人用ブースや複数視聴用ワイドビジョンが設置された AV コーナー、OPAC 検索およびインターネット（データベース）検索コーナーのほか、書庫や事務室、多目的ホールとしての AV 機能を備えた礼拝堂（チャペル）などがある。2 階は開架閲覧室となっており、学生が自由に利用できる PC 端末 20 台が設置されている。閲覧席数は、1 階と 2 階を合わせて 208 席である。図書館では教員が指定する各授業科目の必読書や参考文献を「指定図書」として配架して、学生が閲覧・貸出できるようにしている。また、教職員向けに E メールで「八戸学院図書館ニュースレター」を配信し、新規入荷図書や各種情報を伝えている。さらに、研究費による図書等の購入のほか、文献複写や現物貸借などの研究支援も行っている。

本学の建学の精神を体现する礼拝堂は、学生の自主的サークル活動・集団学習の場としても利用されている。図書館の開館時間は、月曜日から木曜日までは 8 時 40 分から 19 時とし、金曜日は 8 時 40 分から 20 時までとしている。利用者サービスについては、教育実習や卒論執筆用に特別貸出サービスを設け、通常の貸出期間（2 週間）よりも長期間の貸出に対応している。

また、本学および八戸学院大学短期大学部で発行している紀要は、平成 24(2012)年度から電子（PDF）版となり図書館ウェブサイト上に公開するとともに、国立情報学研究所（NII）の共用リポジトリサービスを利用して「八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部学術情報リポジトリ」とおしても公開している。【表 2-23】図書、資料の所蔵数、【表 2-24】学生閲覧室等、【資料 2-9-1】八戸学院図書館規程、【資料 2-9-2】八戸学院図書館規程細則

● 情報環境設備

7 号館（地域連携研究センター）2・3 階にコンピュータ実習室があり、各階にコンピュータがそれぞれ 55 台設置されている。この実習室は「情報処理基礎」、「情報処理応用」等の演習科目のほか、各種講習会にも活用されている。講義棟、図書館、学生食堂などキャンパス内に、無線 LAN のアクセスポイントを多数設置し、インターネットに接続できる環境を整えている。情報メディア課は、パソコンのトラブルへの対応を含め、学内の IT ネットワークシステム環境を維持している。【表 2-25】情報センター等の状況

● 体育施設・運動場

総合体育館、硬式野球場、サッカー場、ラグビー場、多目的野外練習場、室内練習場を

整備している。総合体育館には、低酸素トレーニング装置を備えた科学トレーニングラボを設置している。これらの体育施設は、授業、学生のクラブ活動のほか、地域の中学校および高等学校の練習や大会等に活用されている。室内練習場は、硬式野球部練習場および、法人内部活動、系列幼稚園のイベントなどに利用されている。

また、総合体育館は、法人と八戸市との「災害発生時の施設の使用に関する協定」に基づき、一時避難場所として指定されている。【表 2-22】その他の施設の概要

● 駐車場・駐輪場

学生駐車場（353 台駐車可能）、駐輪場（30 台駐輪可能）、教職員駐車場（147 台駐車可能）が整備されている。

● 施設設備の維持管理

施設全体の維持管理については、財務部管財課職員が日常の点検などを行うほか、環境整備（芝刈り、剪定、冬季除雪）や校舎の修繕関係を行い、清掃等は法人関連業者（㈱学園サービス）に委託している。

施設設備の点検としては、簡易水道などの自主点検のほかに、法定検査を定期的に行い、所轄官庁等への報告を適切に行っている。

法定検査・点検項目、時期、委託先は、表 2-9-4 のとおりである。

表 2-9-4 法定検査・点検項目、時期、委託先

検査・点検項目	実施時期	委託先
消防用設備保守点検	年 2回 6・12月	外部委託
浄化槽保守点検	年12回 毎月	株式会社学園サービス
浄化槽法定検査	年 1回 7月	青森県浄化槽検査センター
貯水槽清掃	年 1回 12月	外部委託
簡易専用水道検査	年 1回 7月	青森県薬剤師会衛生検査センター
電気設備点検	年12回 毎月	外部委託
電気設備年次点検	年 1回 8月	外部委託
昇降機定期検査	年 4回	外部委託
ボイラ性能検査	年 1回 7月	ボイラ・クレーン安全協会
ボイラ排気ガスばい煙測定	年 1回 3月	外部委託

委託管理会社からの点検結果の報告を受け、不備があれば改善に努めている。

学内警備については、8 号館（総合実習館）内に防犯カメラを設置するとともに、事故の未然防止のため、キャンパス内を職員が巡回している。また、夜間や休日の警備に関しては、警備会社に委託している。

災害緊急時に対応するため、「学校法人光星学院危機管理規程」、「八戸学院大学危機管理マニュアル」がある。平成 28(2016)年度には、大規模地震を想定した避難訓練を、昼休みの時間を利用して、学生および教職員を対象に実施した。なお、本学では、平成 23(2011)年度より、各施設の耐震補強工事の具体的な計画策定に取り組み、平成 24(2012)年度に耐震診断および耐震補強工事を完了したので、現時点では校舎の耐震については問題がない。

災害時における飲料水などの確保対策として、購買部運営会社と自動販売機設置業者の協力を得て、対応に努めている。【資料 2-9-3】学校法人光星学院危機管理規程、【資料 2-9-4】八戸学院大学危機管理マニュアル、【資料 2-9-5】消防訓練実施計画書

各校舍出入り口にはスロープ、階段には手すりを設置して、バリアフリー化に努めている。AED（自動体外式除細動器）は、「学生生活ハンドブック（学生便覧）」に設置場所を掲載し、周知している。

毎年度実施している「学生生活に対する調査」の施設・環境に対する要望として、冷暖房の設備設置、悪臭対策などが上位に挙げられている。冷暖房の設備については、平成 28(2016)年度に 5 号館講義室に設置した。他の講義室も計画的に設置する予定であり、悪臭対策にも期待される。【資料 2-9-6】平成 28 年度学生生活に対する調査

2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

平成 29(2017)年度に履修者数が 100 人を超える科目は、リベラルアーツにおける導入教育区分に配当されている「宗教学」、「キリスト教概論」、「地域文化論」などに加え、専門科目の必修科目や選択科目の一部である。これらの科目は 200 人以上収容でき、音響、プロジェクター設備等が備わっている 3 号館および 5 号館の大講義室を活用している。

履修者数が変動しやすい選択科目については、履修登録確定後、各教室の収容定員と照らしあわせ、適正規模に振り分けるよう努めている。

1 年次必修科目である「基礎演習」、「プレゼンテーション」や、ビジネス学部ビジネス学科と健康医療学部人間健康学科 2 年次以降の必修科目である「研究演習 I ～VI」は、本学の少人数教育の柱である。「基礎演習」、「プレゼンテーション」、「研究演習 I ～VI」は、主に 2 号館 2 階・3 階と 3 号館 2 階・3 階のゼミ室で行われ、いずれのゼミ室も 10～12 人程度収容でき、履修者数に合わせて割り当てている。また、8 号館研究室など教員の研究室も利用されている。

リベラルアーツにおける導入教育区分に配当されている「日本語リテラシー」、「情報処理基礎」は、2 クラス編成で実施しており、習熟度別に 1 クラス 40 名前後で行っている。

【表 2-20】講義室、演習室、学生自習室等の概要

(3) 2-9 の改善・向上方策（将来計画）

災害や緊急時の対策、スロープ等のバリアフリー対策については、委託管理会社の点検報告にしたがって、適宜対応する。5 号館講義室以外の冷暖房設備の設置に関する要望が多いため、計画的に設置して行く。

教育課程遂行のために、講義室、実習室、実習施設等の適切な割り当てに努める。履修者数の確定後に必要に応じて適正なクラスサイズに編成する。

【基準 2 の自己評価】

本学は「神を敬し、人を愛する」という建学の精神に基づいて各学科のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）と判定方法を明確に定め、「大学公式ホームページ」や「学生生活ハンドブック（学生便覧）」、「大学案内」等によって公表している。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）に沿って、「推薦入学試験」、「一般

入学試験」、「AO 入学試験」、「専門課程入学試験」、「大学入試センター試験成績利用入学試験」などの多様な方法で入学者を選抜している。また、「編入学試験」、「学士入学試験」、「社会人入学試験」などの入学試験も設けている。収容定員あたりの充足率は、ここ数年ビジネス学部と人間健康学部で90%前後を推移してきた。平成28(2016)年度においては、健康医療学部看護学科を開設して2学部3学科体制となった。平成29(2017)年度入学者は、ビジネス学部で定員を充足し、2学部3学科合計は前年度より増加した。

学則第1条の教育目的に基づき、各学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を明確にして教育課程を編成している。リベラルアーツ科目群では、建学の精神に基づいて、幅広い教養やリテラシーを培う科目群を置いている。リテラシー教育の一環として、全学科で「日本語リテラシー」、「日本語表現リテラシー」を設け、「日本語リテラシー」については、毎年度効果を検証している。専門教育では、職業イメージや資格・免許の取得を念頭に教育課程を編成している。ビジネス学部と健康医療学部人間健康学科では、学生の主体的な学修を促すためのコース・プログラム制を組んでいる。また、キャリア教育を重視して、社会人としての基礎力や主体的に考え行動する力の向上を目的に1年次から4年次にわたるキャリア教育科目「キャリアデザインⅠ～Ⅷ」を設けている。健康医療学部看護学科では、看護師養成課程に加えて、保健師養成課程を設けている。

教授方法の工夫・開発には、FD委員会を中心に、「授業評価アンケート」、「FD研修会」、「公開授業」などを実施し、教員の教育力の向上に努めている。また、教学システム「はちがくキャンパスWEB」の活用を促進するため、研修会を実施している。

学修支援や授業支援については、教学部門の委員会と事務局が協働で行っている。教務委員会と教務学生課が各学期の始めにオリエンテーションを実施し、カレッジアドバイザーがナンバリング表を用いて履修科目の順序性を基に、きめの細かい履修指導を行っている。教員は、オフィス・アワーを開設して各種相談に応じている。さらに、学科会議で学生の欠席状況や問題点等を情報共有し、指導に繋げている。

単位認定の仕組みや卒業要件などの基準については、履修規程により明確に定めている。履修の認定や成績評価基準については、学則に明記されたとおりに運用されており、シラバスをとおして個々の授業科目の評価方法を明示している。学生の学修時間に配慮して、1セメスターに履修することのできる上限を原則として24単位としている。また、各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を明確に定め、教授会（卒業判定会議）において、履修規程に基づく厳格な単位認定により卒業認定、学位授与について審議し、判定している。

キャリア支援については、キャリア支援センターを中心に、各種の資格取得講座や「就職合宿」、「企業説明会」など、多様な事業を実施している。就職内定率は、ビジネス学部、人間健康学科とも90%以上を維持している。

教育目的の達成状況の点検・評価については、FD委員会が主体となり、「授業評価アンケート」、「公開授業」を実施し、授業方法の改善に役立てている。

学生生活のための支援は、学生支援センターと学生委員会、教務学生課が中心となり、他の委員会やカレッジアドバイザーの協働の下、実施している。新入生に対しては、早い時点で大学生活に馴染むように、4月当初に「新入生交流会」を開催している。学友会の課外活動に必要な施設を提供し、教職員などが適宜指導・助言を行っている。

また、「特別学生支援室」を設置し、障害を持つ学生への支援を行っている。日本学生支援機構や本学独自の奨学金制度を介して学生の経済的支援を行っている。

学生の健康管理については、保健室に常駐する有資格者のスタッフと校医が中心となり、健康診断や日常的な保健活動を行っている。学生相談については、予約制による学生相談室を設置し、学生生活全般の相談事項を受け付ける体制を整えている。学期ごとのオリエンテーションで交通安全講習会を開催し、学生に対する安全教育を行っている。

毎年度「学生生活に対する調査」を行い、学生の生活状況や意見、要望の把握に努め、改善を行っている。

本学では、大学設置基準に定められた必要専任教員数、必要専任教授数を満たしている。教員の採用・昇任など、教員評価は規程に基づいて適切に運用している。FD 委員会が中心となって、教員の資質や能力の向上のために「授業評価アンケート」、「FD 研修会」、「公開授業」などの取り組みを行っている。

研究活動への助成として、「個人研究費」、「特別研究費」、「学校法人光星学院イノベーションプログラム（基金）研究等補助金」がある。研究推進委員会では「科学研究費申請サポート講習会」を開催し、教員の研究推進に努めている。また、文部科学省の指針に則り、「研究倫理・コンプライアンス教育研修会」を開催している。

教養教育では、問題点・課題の検討や他大学の教養教育の現状などの情報収集に努め、体制の充実を図っている。

校地、校舎、設備、実習施設、図書館などの教育環境については、適切に運営、管理され、危機管理についての規程やマニュアルも整備されている。

履修者数による教室の管理運営は、教務学生課により適切に行われている。また、「情報処理基礎」や「日本語リテラシー」等の習熟度別クラス編成にも適宜対応している。